学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史 a	佐野　好則
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
西洋古代中世の哲学史を、代表的な哲学者の思想に即して概観すること。

＜授業の概要＞
西洋古代中世の代表的な哲学者の著作の抜粋を精読することを通して、各哲学者の思想の特長や相互の関連性を理解する。

＜履修条件＞
学部 1，2 年を主な対象学年とする。

＜授業計画＞

1. 哲学の始まり
2. ソクラテス以前の哲学者達(1)－イオニアの自然哲学
3. ソクラテス以前の哲学者達(2)－ヘラクレイトス、パルメニデス、ピタゴラス学派
4. ソクラテス以前の哲学者達(3)－エムペドクレス、アナクサゴラス、原子論
5. ソフィスト達とソクラテス
6. プラトンの哲学。イデア論
7. アリストテレスの哲学
8. ストア派、エピクロス派、懐疑主義
9. プロティノス
10. アウグスティヌス(1)－新プラトン主義の影響
11. アウグスティヌス(2)－時間論、内なる教師
12. アンセルムス
13. 唯名論と実名論
14. トマス・アクィナス
15. 神学における哲学の受容

＜準備学習等の指示＞
各哲学者の著作の抜粋を読んでくることが予習として課される。

＜テキスト＞
毎回資料を配布する。

＜参考書＞
A.H.アームストロング『古代哲学史』みすず書房、1989 年
内山／中山編『西洋哲学史、古代・中世篇』ミネルヴァ書房、1996 年
熊野純彦『西洋哲学史、古代から中世へ』岩波新書、2006 年

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席が 2/3 に満たない者は評価の対象としない。
レポート提出による。

学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史ｂ	田中　敦
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
様々な哲学の主題と考え方を学ぶことを通じてそれらに共通する哲学一般の基礎的な理解を目指す。その際、現代という時代また現代思想の基盤として西洋近世哲学の基本的全体的な特徴と課題の理解をも目指す。特に神学、キリスト教思想との関連において哲学の歴史とその理解のもつ意味を考えることを目標にしたい。

＜授業の概要＞
近世以後の西欧の哲学の諸学説について、特に経験論と合理論の基本的な違い、それぞれの正当な根拠、両者を統合したカント哲学の理解を得た上で、カント以後の哲学の主要な哲学者の考えも辿る。それと共に、哲学の基本的な概念、例えば実体、属性、観念などの意味の正確な理解を期す。

＜履修条件＞
特にありません。

＜授業計画＞
1．哲学とはどういうものか。それは信仰、神学の理解にとってどのような意味を持ち得るか。近世ヨーロッパの哲学の概観とその特徴、現代の哲学の状況。
2．過渡期の哲学としてのルネサンス哲学（プラトン主義の復興、アリストテレス哲学の復興、人文主義）。
3．17 世紀の哲学の二大潮流（英国経験論と大陸合理論）。フランシス・ベーコン。学問の革新と新しい認識の方法（イドラ批判と帰納法）。
4．デカルト 1.（生涯、方法の探究と懐疑、実体の意味）、普遍的な方法的懐疑と合理的体系。
5．デカルト 2.（精神と物体の二元論、心身合一の難問、情念と道徳）。
6．パスカル（理性と心情、三つの秩序）と機会原因論（心身の関係について）。
7．スピノザ（感情の奴隷から自由な存在へ、認識の三段階、神即自然の一元論）。
8．ライプニッツ（実体の多元論、モナドと予定調和説、二つの原理と二種類の真理）。
9．イギリス経験論の流れとロック（心は白紙、実体の複雑観念、抽象一般観念）。
10．バークレー（抽象一般観念の否定、物体の存在は知覚されること）、ヒューム（因果関係の客観性の否定、二種類の関係と観念連合、知覚の束）。
11．カントの批判哲学（アプリオリな綜合的判断、コペルニクス的転回、現象と物自体、二律背反、実践理性の優位、定言命法）。
12．ドイツ観念論の哲学、フィヒテ（知識学、事行）、シェリング（同一哲学、人間の自由）。
13．ヘーゲル（弁証法、精神現象学、理性の狡知、歴史哲学）。
14．ヘーゲル以後の哲学の展開、キェルケゴール（実存の三段階）とニーチェ（超人と永劫回帰、ニヒリズム）。
15．ニーチェ以後と現代の哲学の展開（新カント派、実証主義、プラグマティズム、分析哲学、現象学）。

＜準備学習等の指示＞
予め配布する資料を読んでおくことが授業内容の理解を助けるので、少なくとも目を通して、どのような問題が取り上げられるか、また理解の難しい点、疑問点などをチェックして出席して欲しい。

＜テキスト＞
事前に資料を配布し、その内容の理解を中心として講義を進めます。

＜参考書＞
原佑、井上忠、杖下隆英、坂部惠『西洋哲学史｛第三版｝』東京大学出版会、1988 年
岡崎文明、日下部吉信他著『西洋哲学史』昭和堂、1994 年

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポートの評価を基にして、授業への積極的な参加態度と発言の評価を加える。
出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。

学際基礎科目・人文科学系	
キリスト教と世界史ａ	棟居　洋
前期・２単位	＜登録条件＞同科目ｂと通年で登録すること。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
キリスト教が世界史の各段階で、どのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果したかを学ぶ。

＜授業の概要＞
キリスト教の歴史を古代ローマ帝国末期から近世まで辿り、キリスト教が世界史の各段階で、どのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果したかを学ぶ。

＜履修条件＞
高校の世界史の未履修者は、その独習を求める。学部１年次で履修すること。

＜授業計画＞
1. 人間と時間、歴史とその解釈、キリスト教の歴史観について学ぶ。
2. 古代ローマ帝国の東西への二分化によるビザンツ文明とラテン文明の成立(1) 地中海世界の二分化と東方教会、ビザンツ文明について学ぶ。
3. 古代ローマ帝国の東西への二分化によるビザンツ文明とラテン文明の成立(2) 西方教会、ラテン文明について学ぶ。
4. 中世キリスト教世界とイスラム世界(1) 教皇権と皇帝権の関係、修道院制度の展開について学ぶ。
5. 中世キリスト教世界とイスラム世界(1-2) 修道院改革、中世キリスト教文化について学ぶ。
6. 中世キリスト教世界とイスラム世界(2) イスラム世界の出現と発展、イスラム文化、そのキリスト教世界への影響について学ぶ。
7. 東西文化の出会い　十字軍とそのキリスト教世界への影響について学ぶ。
8. ルネサンスと宗教改革(1) ルネサンスについて学ぶ。
9. ルネサンスと宗教改革(2) ローマ・カトリック教会内の改革の動きと先駆的宗教改革について学ぶ。
10. 宗教改革の展開(1) ルター、ツヴィングリ、再洗礼派の宗教改革について学ぶ。
11. 宗教改革の展開(2) カルヴァンの宗教改革について学ぶ。
12. 17 世紀のヨーロッパ世界　宗教改革期と啓蒙主義時代の間の宗派対立の動向について学ぶ。
13. キリスト教世界の拡張(1) 対抗宗教改革とローマ・カトリック教会の海外伝道について学ぶ。
14. キリスト教世界の拡張(2) イングランド・スコットランドの宗教改革、英国国教会、ピューリタニズムとプロテスタント諸教会の海外伝道について学ぶ。
15. まとめ

＜準備学習等の指示＞
必ず復習をして授業に臨むこと。

＜テキスト＞
特定の教科書は使わない。必要な資料は各授業時に配布する。

＜参考書＞
学年初めと各授業時にその都度配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポートによって最終評価を行なう。出席回数が全授業回数の２/３に満たない者にはレポート提出資格を認めない。

学際基礎科目・人文科学系	
キリスト教と世界史ｂ	棟居　洋
後期・２単位	＜登録条件＞同科目ａと通年で登録すること。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
キリスト教が世界史の各段階で、どのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果したかを学ぶ。

＜授業の概要＞
キリスト教の歴史を近代はじめから現代まで辿り、キリスト教が世界史の各段階で、どのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果したかを学ぶ。

＜履修条件＞
学部１年次で履修すること。

＜授業計画＞
1. 啓蒙主義とキリスト教(1) 自然科学の発達、啓蒙主義思想について学ぶ。
2. 啓蒙主義とキリスト教(2) 理神論、敬虔主義、自然科学とキリスト教の関係について学ぶ。
3. 民主主義とキリスト教(1) 民主主義の意味、民主主義の歴史的背景について学ぶ。
4. 民主主義とキリスト教(2) 民主主義の精神的基盤、民主主義の問題性について学ぶ。
5. 資本主義、社会主義とキリスト教(1) 興隆期の資本主義とキリスト教との関係について学ぶ。
6. 資本主義、社会主義とキリスト教(2) 産業革命から帝国主義段階の資本主義とキリスト教との関係、社会主義の台頭について学ぶ。
7. 資本主義、社会主義とキリスト教(3) 社会主義とキリスト教との関係、キリスト教社会主義、宗教社会主義について学ぶ。
8. 現代思想とキリスト教(1) 現代思想のうち、実証主義、進化論、精神分析について学ぶ。
9. 現代思想とキリスト教(2) 現代思想のうち、実存主義、プラグマティズム、新ヒューマニズムについて学ぶ。
10. 現代思想とキリスト教(3) 近・現代のキリスト教思想と運動のうち、シュライアマハ―の思想、ドイツ観念論、自由主義神学、トレルチの思想などについて学ぶ。
11. 現代思想とキリスト教(4) 近・現代のキリスト教思想と運動のうち、キルケゴールの思想、オクスフォード運動、バルト神学、テンプル、ニーバー、ボンヘッファー、ティリッヒなどの神学思想を学ぶ。
12. キリスト教とこれからの世界(1) 現代世界の特質について学ぶ。
13. キリスト教とこれからの世界(2) 現代世界の諸問題について学ぶ。
14. キリスト教とこれからの世界(3) 現代世界におけるキリスト教の革新、これからの世界においてキリスト教が果たすべき役割などについて学ぶ。
15. まとめ

＜準備学習等の指示＞
必ず復習をして授業に臨むこと。

＜テキスト＞
特定の教科書は使わない。

＜参考書＞
各授業時にその都度紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポートによって最終評価を行なう。出席回数が全授業回数の２/３に満たない者にはレポート提出資格を認めない。

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目	
キリスト教と芸術２音楽史ａ	渡辺　善忠
前期・２単位	＜登録条件＞条件ではありませんが、通年の履修をお勧め致します。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
神の救いの御業が、旧新約聖書の御言葉に基づく音楽によって伝えられてきた歴史をたどりながら、現代の教会における音楽の役割について考察することを目標とします。

＜授業の概要＞
「音楽史ａ（前期）」では、ユダヤ教の音楽から宗教改革時代前後までの音楽について、時代背景と聖書解釈の両面から論じつつ作品に親しみます。

＜履修条件＞
礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方の履修を歓迎致します。

＜授業計画＞
第１回　　キリスト教音楽史概説（定義づけ、神学と音楽の関わり等）
第２回　　旧約聖書時代の音楽①～ユダヤ教の音楽～
第３回　　旧約聖書時代の音楽②～ユダヤ教から初代教会にかけての音楽～
第４回　　グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会①～グレゴリオ聖歌の成立～
第５回　　グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会②～グレゴリオ聖歌の発展～
第６回　　ミサ曲の成立と発展～音楽史的側面～①
第７回　　ミサ曲の成立と発展～礼拝様式との関わりについて～②
第８回　　オラトリオの成立と発展～音楽史的側面～①
第９回　　オラトリオの成立と発展～聖書朗読から音楽へ～②
第１０回　レクイエムの成立と発展
第１１回　宗教改革前の教会音楽
第１２回　宗教改革時代の教会音楽
第１３回　旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌①～聖書と讃美歌の関わり～
第１４回　旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌②～現代の教会における讃美歌～
第１５回　旧約聖書の時代から宗教改革時代までの教会音楽の発展と評価

＜準備学習等の指示＞
受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べや、講義内容の進度を調整致します。

＜テキスト＞
「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著）
第１回の講義で配布する予定です。

＜参考書＞
図書館のカウンター横の棚に参考図書のコーナーを設けて頂きましたのでご参照下さい。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席状況と平常点を考慮に入れながら、試験かレポートで評価致します。

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目	
キリスト教と芸術２音楽史ｂ	渡辺　善忠
後期・２単位	＜登録条件＞条件ではありませんが、通年の履修をお勧め致します。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
神の救いの御業が、旧新約聖書の御言葉に基づく音楽によって伝えられてきた歴史をたどりながら、現代の教会における音楽の役割について考察することを目標とします。

＜授業の概要＞
「音楽史ｂ（後期）」では、宗教改革時代から現代までの音楽について、時代背景と聖書解釈の両面から論じつつ作品に親しみます。なお、後期のしめくくりには、讃美歌の選曲方法について具体的に学ぶ予定です。

＜履修条件＞
礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方の履修を歓迎致します。

＜授業計画＞
第１回　　キリスト教音楽史概説（定義づけ、神学との関わり等）
第２回　　Ｊ．Ｓ．バッハ①～聖書テキストとカンタータ～
第３回　　Ｊ．Ｓ．バッハ②～バッハの時代の礼拝様式～
第４回　　Ｇ．Ｆ．ヘンデル
第５回　　Ａ．モーツァルト
第６回　　Ｌ．Ｖ．ベートーヴェン
第７回　　Ｆ．シューベルト
第８回　　Ｆ．メンデルスゾーン
第９回　　Ｊ．ブラームス
第１０回　Ｆ．シュミット
第１１回　Ｊ．ラター
第１２回　現代のキリスト教音楽と将来の課題
第１３回　讃美歌の選曲方法①～礼拝における讃美歌の役割～
第１４回　讃美歌の選曲方法②～讃美歌選曲の実践～
第１５回　旧約聖書の時代から宗教改革時代までのキリスト教音楽の発展と評価

＜準備学習等の指示＞
受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べや、講義内容の進度を調整致します。

＜テキスト＞
「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著）
第１回の講義で配布する予定です。

＜参考書＞
図書館のカウンター横の棚に参考図書のコーナーを設けて頂きましたのでご参照下さい。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席状況と平常点を考慮に入れながら、試験かレポートで評価致します。

学際基礎科目・社会科学系	
社会史ａ	江川　由布子
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
政治・経済・宗教・思想・人々のメンタリティー等の諸要素を含んだ広義の「社会史」の視点から、ヨーロッパ中世史を通して、歴史的なものの見方について学びます。

＜授業の概要＞
欧州連合（EU）によるヨーロッパ統合の行方が国際社会で大きな注目を集めている今、「ヨーロッパとは何か」という世界史的問いが改めて提起されています。講義では、こうした今日的問題を視野におさめながら、ヨーロッパ世界の形成期として位置づけられている中世という時代を考察します。

＜履修条件＞
特に条件はありません。
歴史ないし歴史学に積極的な関心をもって授業に参加してください。

＜授業計画＞
第１回：オリエンテーション：授業の目的・内容・進め方、成績評価方法、参考図書等についての説明
第２回：「ヨーロッパ」とは何か
第３回：歴史理解における「中世」像の変遷
第４回：古代から中世へ①－ローマ帝国の解体と西ヨーロッパにおけるゲルマン部族国家の成立
第５回：古代から中世へ②－東ヨーロッパにおけるギリシア・東方正教世界と西ヨーロッパにおけるラテン・カトリック世界の形成
第６回：古代から中世へ③－東ヨーロッパにおけるビザンツ帝国の発展と西ヨーロッパにおけるフランク王国の台頭
第７回：古代から中世へ④－イスラム勢力の拡大による古代地中海世界解体過程の完了
第８回：古代から中世へ⑤－カロリング帝国の誕生～政治的・宗教的・文化的枠組としての西ヨーロッパ中世世界の成立
第９回：カロリング帝国の解体とヨーロッパ諸国家の形成
第10回：封建社会の成立
第11回：十字軍運動と「ヨーロッパ」の自己意識①－運動の諸要因
第12回：十字軍運動と「ヨーロッパ」の自己意識②－運動の思想的側面と人々のメンタリティー
第13回：人々の共同生活と社会的紐帯のあり方①－中世社会の共同体的側面について
第14回：人々の共同生活と社会的紐帯のあり方②－共同体的紐帯の諸形態
第15回：授業のまとめ

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
特定の教科書は使いません。必要な資料は授業時に配布します。

＜参考書＞
授業時に紹介します。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
期末試験に授業への参加状況等を加味して総合的に評価します。
正当な理由なく欠席が全授業回数の３分の１を超えた場合、成績評価の対象としません。

学際基礎科目・社会科学系	
社会史ｂ	江川　由布子
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
政治・経済・宗教・思想・人々のメンタリティー等の諸要素を含んだ広義の「社会史」の視点から、ヨーロッパ近世史を通して、歴史的なものの見方について学びます。

＜授業の概要＞
ヨーロッパの中世と近世を時代的に区分する指標として位置づけられているルネサンスは、ヨーロッパ近代世界の成立基盤として特にその進歩的意義が評価されてきました。講義では、こうした従来のルネサンス論を見直しながら、この文化運動の諸側面とその歴史的意義を考察します。

＜履修条件＞
特に条件はありません。
歴史ないし歴史学に積極的な関心をもって授業に参加してください。

＜授業計画＞
第１回：オリエンテーション：授業の目的・内容・進め方、成績評価方法、参考図書等についての説明
第２回：ルネサンス論の変遷①－ルネサンス概念の形成
第３回：ルネサンス論の変遷②－「近代の出発点」としてのルネサンス解釈への批判と新たなルネサンス像の構築
第４回：中世末期「危機の時代」とルネサンスの始まり①－ルネサンス人文主義の先駆者ペトラルカを通して
第５回：中世末期「危機の時代」とルネサンスの始まり②－ルネサンスの始まりの時代的背景
第６回：ルネサンスの舞台－イタリアと地中海世界の変容
第７回：ルネサンスにおける人間観と世界観の転換①－ルネサンスにおける「個人」の発展とは
第８回：ルネサンスにおける人間観と世界観の転換②－「自然」の捉え方にみるルネサンスの世界観
第９回：ルネサンスにおける人間観と世界観の転換③－新プラトン主義的・ヘルメス的世界観の発展
第10回：ルネサンスにおける「魔術」と「科学」
第11回：ルネサンスと宗教改革①－宗教改革の発端にみる両者の対立
第12回：ルネサンスと宗教改革②－ルネサンス人文主義と宗教改革運動との関連
第13回：ルネサンスと大航海
第14回：ルネサンスの終焉
第15回：授業のまとめ

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
特定の教科書は使いません。必要な資料は授業時に配布します。

＜参考書＞
授業時に紹介します。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
期末試験に授業への参加状況等を加味して総合的に評価します。
正当な理由なく欠席が全授業回数の３分の１を超えた場合、成績評価の対象としません。

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権１　法学概論	佐々木　高雄
前期・２単位	＜登録条件＞特になし

＜授業の到達目標及びテーマ＞法律や『六法全書』への嫌悪感を払拭し、「まずは、自分で考えてみよう」との意欲を懐き、論理的な思考に馴染めることを目的とする。

＜授業の概要＞「人が定めた規則を、なぜ『法律』として評価し、従わなければならないのか」との問題を考えたうえで、市民生活に必要な法律上の知識を――ほんの一部にとどまるが――修得しながら、その背後に潜む理念を探りたい。

＜履修条件＞特になし

＜授業計画＞

1. 法と法律の異同／正義の女神が持つ「秤と剣」の意味／ノートの取り方
2. 法律解釈の方法／「可能な解釈」と「採るべき解釈」／本の読み方
3. 出生にかかわる法律（権利能力／自然人と法人）／レポートの作り方
4. 基礎的事項（一般法と特別法／年齢の数え方と期間計算法／条件と期限）
5. 未成年者に対する保護法制（行為能力①　未成年者でも出来ること）
6. 老人に対する保護法制（行為能力②　成年後見制度）
7. 婚姻にかかわる法律
8. 離婚にかかわる法律
9. 遺産相続にかかわる法律
10. 物権にかかわる法律①（物権と債権の異同／物権にかかわる原則）
11. 物権にかかわる法律②（所有権の特質／相隣関係）
12. 物権にかかわる法律③（所有権の取得）
13. 債権にかかわる法律①（身分から契約へ／契約にかかわる原則）
14. 債権にかかわる法律②（債権の保全と担保）
15. 犯罪と刑罰について／まとめ

＜準備学習等の指示＞授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するなら、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。

＜テキスト＞特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。

＜参考書＞一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が１／３を超える者は、評価の対象としない。

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権２　日本国憲法	佐々木　高雄
後期・２単位	＜登録条件＞特になし

＜授業の到達目標及びテーマ＞各自が囚われず、憲法問題の本質を、実証的な知識に基づいて、自分の頭で検討できるようにすることを目的とする。

＜授業の概要＞制憲史的手法を活用し、できるかぎり客観的な事実を確認しながら、憲法という規範の解釈に努め、人権問題を中心に、「憲法に盛り込まれた理念」と「現実の姿」とを、対比して検討する。

＜履修条件＞特になし

＜授業計画＞

1. 憲法とは何か？
2. 明治憲法の制定／明治憲法の特徴
3. 日本国憲法の制定①（ポツダム宣言からマッカーサー・ノートまで＝新憲法の基盤・背景）
4. 日本国憲法の制定②（マッカーサー草案＝民主化のための諸項目）
5. 日本国憲法の制定③（日本側の作業＝旧い価値観／議会における審議手続／改正か、制定か）
6. 制定された憲法の特色／国民主権（象徴天皇制との関わりのもとに）
7. 平和主義①（「第九条」の解釈／前文・第２段）
8. 平和主義②（「第九条」をめぐる裁判例／平和的生存権）
9. 人権尊重主義／人権に関わる一般原則
10. 平等権（信条による差別＝憲法の私人間効力／性差別／尊属殺重罰規定／議員定数不均衡問題）
11. 宗教の自由（信教の自由／政教分離原則）
12. 表現の自由（知らせる自由／知る自由／知られたくない自由）
13. 経済的自由権
14. 身体的自由権（法定手続の保障／令状主義）／他の人権（社会権など）
15. 統治機構／まとめ

＜準備学習等の指示＞授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するなら、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。

＜テキスト＞特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。

＜参考書＞一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が１／３を超える者は、評価の対象としない。

学際基礎科目・自然科学系	
現代の自然観ａ	松原　郁哉
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
天体の運動を地上の物体の運動と同様に説明した古典物理学によって、人類の世界観がどのように変わったか、さらにそこに宗教がどう関わったかを理解する.

＜授業の概要＞
科学的なものの見方を理解するために、ニュートンの力学と熱学の基礎を学ぶ。
科学者と宗教の関わりを学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

1. 力と運動(1)：速度と加速度
2. 力と運動(2)：慣性の法則
3. 力と運動(3)：運動の法則
4. ガリレオの科学と宗教
5. 力と運動(4)：落下運動と放物運動
6. 力と運動(5)：運動量と力積
7. 力と運動(6)：円運動と単振動
8. 力と運動(9)：万有引力
9. ニュートンの科学と宗教
10. 熱とエネルギー(1)：温度と熱膨張
11. 熱とエネルギー(2)：比熱と熱容量
12. 熱とエネルギー(3)：仕事と熱
13. エントロピー(1)：可逆過程と不可逆過程
14. エントロピー(2)：エントロピー増大則
15. 力学と熱学のまとめ

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
プリントを担当者が準備する。

＜参考書＞
授業の中で紹介する.

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
各授業の最後に書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。
出席が２／３に満たない者は評価の対象としない。

学際基礎科目・自然科学系	
現代の自然観ｂ	松原　郁哉
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
相対論や量子力学などの現代物理学によって自然観がどのように変化したか、さらにそこに宗教がどう関わったかを理解する.

＜授業の概要＞
現代物理学が時間・空間および物質の存在形式をどのように捉えているかを知るために、電磁気、波動、相対論および量子論の基礎を学ぶ。
科学者と宗教の関わりを学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

1. 電気と磁気(1)：静電気
2. 電気と磁気(2)：電流
3. 電気と磁気(3)：磁場
4. 電気と磁気(4)：電流と磁場
5. ファラデーの科学と宗教
6. 波動(1)：波の種類と特性
7. 波動(2)：ドップラー効果
8. 波動(3)：波の重ね合わせと干渉
9. 波動(4)：音と音波
10. 相対論(1)：ガリレオの相対性原理と光速度
11. 相対論(2)：アインシュタインの特殊相対性理論
12. アインシュタインの科学と宗教
13. 量子論(1)：光の粒子性と電子の波動性
14. 量子論(2)：シュレディンガー方程式
15. 電磁気、波動、相対論および量子論のまとめ

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
プリントを担当者が準備する。

＜参考書＞
授業の中で紹介する.

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
各授業の最後に書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。
出席が２／３に満たない者は評価の対象としない。

学際基礎科目・情報科学系	
情報基礎	石部　公男
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
「情報社会」にあって、主にコンピュータリテラシーに重きを置きながら、情報そのものの本質とコンピュータの基本的仕組みを理解させる。さらにワード、エクセル、パワーポイントなどのアプリケーションソフトの使用方法を実習を中心としながら、その利用技術の基礎を習得する。

＜授業の概要＞
実習に重きを置きながら、基本的アプリケーションの利用技術を習得し、さらにインターネットの仕組みと、関連領域の知識についての講義。

＜履修条件＞
特に制限はない。

＜授業計画＞
1. 情報とは何か。資料（データ）と情報（インフォメーション）
2. コンピュータの歴史とインターネット
3. パソコンの概要とオペレーティング・システム
4. アプリケーションソフト（ワード・・・1）
5. アプリケーションソフト（ワード・・・2）
6. アプリケーションソフト（ペイントの利用）
7. アプリケーションソフト（エクセル・・・1））
8. アプリケーションソフト（エクセル・・・2）
9. アプリケーションソフト（エクセル・・・3）
10. アプリケーションソフト（パワーポイント・・・1）
11. アプリケーションソフト（パワーポイント・・・2）
12. アプリケーションソフト（パワーポイント・・・3）
13. コンピュータ・言語と HTML
14. HTML とホームページ・・・1
15. HTML とホームページ・・・2

＜準備学習等の指示＞
できるだけタイピングの練習をしておくと良い。

＜テキスト＞
石部公男 他著「情報リテラシー概論：コンピュータの利用とネットワーク環境」ヴェリタス書房（2003）

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
平常点（50%）、提出物（50%）の合計 100%で評価。

神学基礎科目	
キリスト教通論Ⅰ	須田　拓
前期・２単位	＜登録条件＞ 学部１年生は必修

＜授業の到達目標及びテーマ＞
神学の場である教会生活について学び、神学を学ぶための土台を形成する。

＜授業の概要＞
教会生活について学ぶと共に、議論することを通して、神学的に考えるとはどのようなことであるかを学ぶ。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
第１回　　オリエンテーション
第２回　　「新しい伝道の時代へ」（はじめに）
第３回　　「教会生活の鍵」
第４回　　「伝道的教会と伝道的信仰」
第５回　　「洗礼」
第６回　　「聖餐」
第７回　　中間総括
第８回　　「信仰告白と信仰生活」
第９回　　「信仰告白と教会形成」
第１０回　「祈りの意味」
第１１回　「讃美歌の意味」
第１２回　「献金の意味」
第１３回　教会生活についての討議
第１４回　伝道と伝道者についての討議
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞
テキストの該当箇所をよく読んでおき、積極的に議論に参加すること。

＜テキスト＞
近藤勝彦『教会生活の要点』（第二版、東神大パンフレット 38、2010 年）　学生各自で用意すること

＜参考書＞
特にないが、授業の中で必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業での発表、議論への参加状況によって評価する。

神学基礎科目	
キリスト教通論Ⅱ	須田　拓
後期・２単位	＜登録条件＞ 学部１年生は必修

＜授業の到達目標及びテーマ＞
キリスト教信仰の基本的内容を確認しつつ、神学をする目的と意義とを理解する。

＜授業の概要＞
使徒信条および日本基督教団信仰告白の主要項目について、信仰内容を確認しつつ、どのような神学課題が考え得るか考察する。

＜履修条件＞
原則としてキリスト教通論Ⅰを履修していること。

＜授業計画＞
第１回　　オリエンテーション
第２回　　聖書と信条について
第３回　　創造について
第４回　　キリストについて(1) 受肉
第５回　　キリストについて(2) 十字架と救済
第６回　　キリストについて(3) 復活
第７回　　聖霊について
第８回　　教会について
第９回　　終末について
第１０回　中間総括
第１１回　三位一体について
第１２回　選びについて
第１３回　義認と聖化について
第１４回　聖礼典について
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜参考書＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況およびレポートによって評価する。

神学基礎科目	
聖書通論１旧約通論	小友　聡
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
旧約聖書のどこに何が書いてあるかを概観する。同時に、聖書を学問的に読むとはどういうことかをじっくり考える。

＜授業の概要＞
旧約聖書の概観をその順序にしたがって学ぶ。

＜履修条件＞
学部１年次に履修すること。

＜授業計画＞

１．　聖書を学問的に読むとはどういうことか
２．　旧約聖書とは何か
３．　創世記～申命記
４．　ヨシュア記～サムエル記
５．　列王記～エステル記
６．　ヨブ記
７．　詩編
８．　箴言～雅歌
９．　イザヤ書
１０．　エレミヤ書～哀歌
１１．　エゼキエル書
１２．　ダニエル書～ホセア書
１３．　ヨエル書～ミカ書
１４．　ナホム書～マラキ書
１５．　全体的総括

＜準備学習等の指示＞
授業と並行して自分で旧約聖書を必ず通読すること。

＜テキスト＞
日本語訳聖書（新共同訳がよい）
日本聖書協会編『はじめて読む人のための聖書ガイド』（日本聖書協会　1200 円）

＜参考書＞
浅見定雄著『旧約聖書に強くなる本』（日本基督教団出版局）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末試験で評価する。欠席が 3 分の 1 を超えた場合は受験できない。

神学基礎科目	
聖書通論２旧約時代史	大住　雄一
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞　近代的な目から旧約時代史を概観し、旧約聖書の信仰の特質を明らかにする。

＜授業の概要＞　旧約聖書が物語る時代と旧約聖書が成立してきた時代は、近代的歴史学ないし考古学の目からはどのように見えるのだろうか。旧約聖書のテキストおよび隣接する世界の諸資料を歴史資料として読み直す。

＜履修条件＞　なるべく学部１年次に履修すること。

＜授業計画＞

1．　＜聖書はどのような意味で歴史か＞　信仰の書物における歴史
2．　＜イスラエルの起源＞　イスラエルの神 YHWH、YHWH の民イスラエル
3．　＜「族長たち」とは何か＞　先祖はどこから来たか
4．　＜都市貴族、農民、放浪者＞　「ヒブル」と「イスラエル」
5．　＜歴史資料とは何か＞　「十戒」は何語で書かれたか
6．　＜部族社会＞　イスラエルの民の特質
7．　＜王国の成立＞　「ほかの民のように」
8．　＜イスラエルとユダ＞　ダビデはどうして王になったか
9．　＜王国の政治史＞　戦争と平和
10.　＜アッシリアとエジプト＞　国際的環境
11.　＜神々の中のヤハウェ＞　宗教的環境
12.　＜王国の文化＞　ソロモンの知恵
13.　＜バビロン捕囚＞　民の拠って立つところ
14.　＜エズラとネヘミヤ＞　ユダヤ教とは何か
15.　＜まとめと知識の再確認＞

＜準備学習等の指示＞　授業と並行して自分で旧約聖書を全部読むこと

＜テキスト＞

＜参考書＞　授業中に指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　授業への参加度と期末に知識を再確認することによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者には、成績を与えない。

神学基礎科目	
聖書通論３新約通論・歴史	中野　実
後期・２単位	＜登録条件＞学部一年生中心のクラス

＜授業の到達目標及びテーマ＞新約聖書の内容に精通してもらう事がクラスの目標。近い将来、新約聖書神学を深く学んでいくために不可欠な知識、センスを身につけてもらいたい。

＜授業の概要＞学生全員が参加しながら、新約聖書の各文書の内容（神について、キリストについて、教会について）を学んでいく。

＜履修条件＞特になし。

＜授業計画＞学生は毎回クラスのために予習してくることが求められる。まずその日にクラスで扱う新約聖書の文書を前もって精読し、つぎにその文書（の著者）が①神について、②キリストについて、③教会について。どんなことを語っているかを（ノートに）まとめる。それをクラスに持ち寄り、発表しながら、ともに内容に親しんでいく。

① クラスのオリエンテーション
② マタイ福音書
③ マルコ福音書
④ ルカ福音書
⑤ ヨハネ福音書
⑥ 使徒言行録
⑦ ローマ書
⑧ 第一コリント書、第二コリント書
⑨ ガラテヤ、フィリピ
⑩ エフェソ、コロサイ
⑪ 第一テモテ、第二テモテ、テトス
⑫ ヘブライ
⑬ ヤコブ、第一ペトロ
⑭ 第一、第二、第三ヨハネ
⑮ ヨハネ黙示録

＜準備学習等の指示＞日頃から聖書を読む習慣を身につける。

＜テキスト＞旧・新約聖書。旧約も必ず持参する事。

＜参考書＞必要があれば、クラスで指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席と参加を重視。出席が３分の２に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。参加度、貢献度、努力などによって総合的に評価する。

神学基礎科目	
神学通論ａ	**神代　真砂実**
前期・２単位	**＜登録条件＞**神学通論ｂと通年で履修（登録）すること

＜授業の到達目標及びテーマ＞
神学入門として、神学とはどのような学問であるか、どのような思考を求められているのかを学ぶ。

＜授業の概要＞
教会と信仰と神学の不可分性、教職を志す者として神学を学ぶこととその必要性について考える。

＜履修条件＞
学部２年生以上であること。

＜授業計画＞
１．　オリエンテーション
　序――この授業の目的と課題
　第１部　キリスト者と神学者
　Ⅰ．霊的な務め・召命――１．「職業」か？／２．「天職」と「召命」
２．　３．われわれの奉仕／４．教会の「教職」／５．我々の務めと「階級」
３．　Ⅱ．神学と教会奉仕の準備――１．選びと準備／２．牧師に神学教育は必要か？
４．　Ⅲ．神学と信仰の従順――１．奉仕の出発点としての信仰の従順／２．教会の奉仕の根本的要求／３．キリストの要求
５．　４．聖なる奉仕
６．　第２部　キリスト教神学
　Ⅰ．「神学」という言葉の意味
　Ⅱ．キリスト教神学の従来の意味――１．神についての教え・ことばとしての神学
７．　２．古プロテスタンティズムにおける「神学」の意味
８．　Ⅲ．啓蒙主義以降の神学的思考の変化――１．啓蒙主義と神学的思考／２．聖書の「権威」の動揺
９．　３．理性的・学問的思考、カントの批判、伝統的神学概念の解体
10．　Ⅳ．近代神学――１．シュライエルマッハーの神学／２．「絶対的依存の感情」としての宗教
11．　３．「実証的学問」としての神学／４．シュライエルマッハーの概念の積極的意義
12．　５．批判
13．　Ⅴ．近代神学の歩み――１．概観／２．神学的探求の中心領域（史的イエスの探求）
14．　２．神学的探求の中心領域（信仰と知識の関係・神学と哲学）
15．　前期の学びのまとめ

＜準備学習等の指示＞
ノートをきちんととること。

＜テキスト＞
特になし。

＜参考書＞
神代・川島・西原・深井・森本、『神学とキリスト教学』（キリスト新聞社、2009 年）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期中の小課題および期末のレポートの総合による。

神学基礎科目	
神学通論ｂ	神代　真砂実
後期・２単位	＜登録条件＞神学通論ａと通年で登録（履修）すること

＜授業の到達目標及びテーマ＞
（前期と同じ）

＜授業の概要＞
（前期と同じ）

＜履修条件＞
（前期と同じ）

＜授業計画＞

１．Ⅴ．近代神学の歩み（続き）――３．神学諸派／４．神学的自由主義
２．　　５．教会的神学
３．Ⅵ．新たな展開――１．「近代神学」の「失敗」
４．　　２．カール・バルトおよび「新しい神学」
５．　　３．神の言葉の神学
６．　　４．神の言葉における啓示
７．　　５．神学の中心としての神の言葉
８．Ⅶ．神学と教会――福音の宣教と神学（神学の必要性）
９．　　福音の宣教と神学（神学の可能性）
10．Ⅷ．神学の「学問的」性格――１．神学と神学的学問／２．「学問的神学」
11．　　３．神学の教派的性格
12．　　４．教会と神学的探求の自由
13．Ⅸ．神学諸科の分類――１．シュライエルマッハーと近代神学の場合
14．　　２．神学的学問の統一性と全体性
15．後期および一年間の学びのまとめ

＜準備学習等の指示＞
（前期と同じ）

＜テキスト＞
特になし。

＜参考書＞
（前期と同じ）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期中の小課題および期末のレポートの総合による。

外国語科目・必修	
英語ＩＡａ	須田　拓
前期・１単位	＜登録条件＞ 学部１年生は必修

＜授業の到達目標及びテーマ＞
基礎的英語力の向上。

＜授業の概要＞
プリントを用いて、基礎的な英文法の知識を習得する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
第１回　現在形と現在進行形
第２回　過去形と過去進行形
第３回　現在完了形
第４回　過去完了形
第５回　未来を表す表現
第６回　従属節と時制
第７回　中間総括
第８回　法助動詞（can, could, must）
第９回　法助動詞（may, might, should）
第１０回　法助動詞（would, 慣用表現）
第１１回　仮定法
第１２回　受動態
第１３回　使役、話法
第１４回　疑問文
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞
しっかりと復習をすること。

＜テキスト＞
授業において担当者がプリントを配布する。

＜参考書＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況と小テストによって評価する。

外国語科目・必修	
英語ＩＡｂ	須田　拓
後期・１単位	＜登録条件＞ 学部１年生は必修

＜授業の到達目標及びテーマ＞
基礎的英語力の向上。

＜授業の概要＞
プリントを用いて、基礎的な英文法の知識を習得する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
第１回　　動名詞と不定詞（基礎）
第２回　　動名詞と不定詞（応用）
第３回　　動名詞の慣用表現
第４回　　分詞構文
第５回　　冠詞
第６回　　関係代名詞・関係副詞
第７回　　形容詞と副詞
第８回　　中間総括
第９回　　比較
第１０回　接続詞
第１１回　時を表す前置詞
第１２回　場所を表す前置詞
第１３回　その他の前置詞
第１４回　前置詞を含む慣用表現
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞
しっかりと復習をすること。

＜テキスト＞
授業において担当者がプリントを配布する。

＜参考書＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況と小テストによって評価する。

外国語科目・必修	
英語ＩＢａ	須田　拓
前期・１単位	＜登録条件＞ 特になし

＜授業の到達目標及びテーマ＞
初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。

＜授業の概要＞
英語でなされた説教を読むことで、基本的な神学用語に慣れると共に、英語の読解力を養成する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
第１回　　オリエンテーション
第２回　　テキスト講読　The Creed(1) Creation　pp.3-4
第３回　　テキスト講読　The Creed(1) Creation　pp.5-6
第４回　　テキスト講読　The Creed(1) Creation　pp.7-9
第５回　　テキスト講読　The Creed(2) Belief and the Role of the Church　pp.11-12
第６回　　テキスト講読　The Creed(2) Belief and the Role of the Church　pp.13-14
第７回　　テキスト講読　The Creed(2) Belief and the Role of the Church　pp.15-16
第８回　　中間総括
第９回　　テキスト講読　The Creed(3) God's Covenant　pp.17-18
第１０回　テキスト講読　The Creed(3) God's Covenant　pp.19-20
第１１回　テキスト講読　The Creed(3) God's Covenant　pp.21-22
第１２回　テキスト講読　The Trinity and Worship　pp.127-128
第１３回　テキスト講読　The Trinity and Worship　pp.129-130
第１４回　テキスト講読　The Trinity and Worship　pp.131-132
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞
テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。

＜テキスト＞
Colin E. Gunton, *The Theologian as Preacher*, London and New York: T&T Clark, 2007
テキストは担当者が用意する。

＜参考書＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況及び小テストで評価する。

外国語科目・必修	
英語ＩＢｂ	須田　拓
後期・１単位	＜登録条件＞ 特になし

＜授業の到達目標及びテーマ＞
初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。

＜授業の概要＞
英語の神学的文章に触れることで、神学書を読むための英語読解力を養成する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞
第１回　　オリエンテーション　テキストの用語集より justification の項目を読む
第２回　　テキストの用語集より atonement, filioque, predestination の項目を読む
第３回　　テキストの用語集より salvation, sanctification, Trinity の項目を読む
第４回　　テキスト講読　Peter T. Forsyth　pp.121-122
第５回　　テキスト講読　Peter T. Forsyth　pp.123-125
第６回　　テキスト講読　Karl Barth　pp.58-60
第７回　　テキスト講読　Karl Barth　pp.61-62
第８回　　テキスト講読　Karl Barth　pp.63-64
第９回　　テキスト講読　Karl Barth　pp.65-66
第１０回　テキスト講読　Jürgen Moltmann　pp.190-192
第１１回　テキスト講読　Jürgen Moltmann　pp.193-194
第１２回　テキスト講読　Wolfhart Pannenberg　pp.207-208
第１３回　テキスト講読　Wolfhart Pannenberg　pp.209-210
第１４回　テキスト講読　Wolfhart Pannenberg　pp.211-213
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞
テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。

＜テキスト＞
Peter McEnhill and George Newlands, *Fifty Key Christian Thinkers*, London and New York: Routledge, 2004　テキストは担当者が用意する。

＜参考書＞
授業において、必要に応じて指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加状況及び小テストで評価する。

外国語科目・必修	
ドイツ語ＩＡａ(1,2) (初級)	棟居　洋
前期・２単位	＜登録条件＞ドイツ語ＩAb と通年で登録すること。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
ドイツ語文法の基礎的学習に基づき、簡単なドイツ語の文章を読めるようになること。

＜授業の概要＞
ドイツ語文法の基礎的学習に基づき、簡単なドイツ語の文章を読み、ドイツの文化、風土、社会の問題について理解を深める。

＜履修条件＞
学部 1、2 年次で履修すること。

＜授業計画＞
1. ABC、発音、日常の挨拶　前半
2. ABC、発音、日常の挨拶　後半
3. 動詞の現在人称変化、ドイツの食事　前半
4. 動詞の現在人称変化、ドイツの食事　後半
5. 名詞の性、格、複数形、冠詞の変化、ドイツの風土　前半
6. 名詞の性、格、複数形、冠詞の変化、ドイツの風土　後半
7. 定冠詞類、不定冠詞類、人称代名詞、ドイツ人の時間感覚　前半
8. 定冠詞類、不定冠詞類、人称代名詞、ドイツ人の時間感覚　後半
9. 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、動詞の命令形　訳せないドイツ語　前半
10. 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、動詞の命令形　訳せないドイツ語　後半
11. 形容詞の格語尾変化、ドイツの四季　前半
12. 形容詞の格語尾変化、ドイツの四季　後半
13. 形容詞の比較級、形容詞の名詞化、数詞、ドイツの都市　前半
14. 形容詞の比較級、形容詞の名詞化、数詞、ドイツの都市　後半
15. 動詞の過去人称変化、動詞の 3 基本形、不規則変化動詞、ドイツの若者の休暇の体験学習　前半
16. 動詞の過去人称変化、動詞の 3 基本形、不規則変化動詞、ドイツの若者の休暇の体験学習　後半
17. 動詞の完了形、分離動詞、非分離動詞、接続詞、副文、パッチワーク・ファミリー　前半
18. 動詞の完了形、分離動詞、非分離動詞、接続詞、副文、パッチワーク・ファミリー　後半
19. 受動、能動文と受動文、状態受動、zu 不定詞、sein+zu 不定詞、少数民族　前半
20. 受動、能動文と受動文、状態受動、zu 不定詞、sein+zu 不定詞、少数民族　後半
21. 話法の助動詞、未来の助動詞、使役の助動詞、再帰動詞、非人称の es、福祉先進国ドイツ　前半
22. 話法の助動詞、未来の助動詞、使役の助動詞、再帰動詞、非人称の es、福祉先進国ドイツ　後半
23. 定関係代名詞、不定関係代名詞、疑問代名詞、ドイツの平和教育　前半
24. 定関係代名詞、不定関係代名詞、疑問代名詞、ドイツの平和教育　後半
25. 指示代名詞、関係副詞
26. 接続法 1 式、接続法 2 式、言葉と異文化　前半
27. 接続法 1 式、接続法 2 式、言葉と異文化　後半
28. 動詞の現在・過去人称変化総復習
29. 冠詞＋形容詞＋名詞の格変化総復習
30. まとめ

＜準備学習等の指示＞
必ず復習・予習をして授業に臨むこと。授業時には独和辞典を必ず持参すること。

＜テキスト＞
Takashi Oshio, Deutschland: Gestern, Heute und Morgen. Asahi Verlag　学生各自で購入すること。

＜参考書＞
小笠原能仁・ヘルマン・トロール『文法から学べるドイツ語』(ナツメ社)

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期の最後の授業で筆記試験を行ない達成度を評価する。出席回数が全授業回数の 2/3 に満たない者には受験を許可しない。

外国語科目・必修	
ドイツ語ＩＡｂ(1,2) (初級)	棟居　洋
後期・２単位	＜登録条件＞ドイツ語ＩAa と通年で登録すること。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
ドイツ語文法の基礎的学習に基づき、簡単なドイツ語の文章を読めるようになること。

＜授業の概要＞
テキストの章を追って簡単なドイツ語の文章を正確に読み解く。

＜履修条件＞
学部 1、2 年次で履修すること。

＜授業計画＞
1. Etwas zum Lachen.　前半
2. Etwas zum Lachen.　後半
3. Kannitverstan.
4. Das Geschenk.
5. Barbarossa.　前半
6. Barbarossa.　後半
7. Stille Nacht, heilige Nacht !
8. Der Sintflut.　前半
9. Der Sintflut.　後半
10. Als Gauß noch Schüler war.　前半
11. Als Gauß noch Schüler war.　後半
12. Wie kräht der Hahn ?　前半
13. Wie kräht der Hahn ?　後半
14. Das Mädchen, das immer furzte.　前半
15. Das Mädchen, das immer furzte.　後半
16. Die Prinzessin auf der Erbse.　前半
17. Die Prinzessin auf der Erbse.　後半
18. Doktor Zamenhof.　前半
19. Doktor Zamenhof.　後半
20. Der Tee.　前半
21. Der Tee.　後半
22. Aus dem Leben eines Taugenichts.　前半
23. Aus dem Leben eines Taugenichts.　後半
24. Das Kamel.　前半
25. Das Kamel.　後半
26. Richard Wagner.　前半
27. Richard Wagner.　後半
28. Mensch und Umwelt.　前半
29. Mensch und Umwelt.　後半
30. まとめ

＜準備学習等の指示＞
必ず復習・予習をして授業に臨むこと。授業時には独和辞典を必ず持参すること。

＜テキスト＞
大岩信太郎編『初級後期ドイツ語読本(4)』(三修社) 学生各自で購入すること。

＜参考書＞
授業の中でその都度紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期最後の授業で筆記試験を行ない、達成度を評価する。出席回数が全授業回数の 2/3 に満たない者には受験を許可しない。

外国語科目・必修	
ドイツ語ＩＢａ（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）	福嶋　揚
前期・１単位	＜登録条件＞通年(a,b)の登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
神学生にとって有意義な「ドイツ語コミュニケーション」とは、何よりもドイツ語による「キリスト教的コミュニケーション」であろう。プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学びたい。

＜授業の概要＞
様々なテキスト、音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。また平易なドイツ語テキストを併せて読むことにしたい。

＜履修条件＞
学部 2 年に履修。

＜授業計画＞

1. 主の祈り、ニカイア信条、使徒信条
2. 十戒その他の重要な戒め
3. 詩編に基づく祈り
4. 聖書に基づく賛美の祈り
5. 子供と共に祈る
6. 日常の中の祈り
7. 日曜日から土曜日までの日ごとの祈り
8. その他の様々な場面での祈り
9. ローズンゲン(日々の聖句集)の用い方
10. カテキズム(ルター小教理問答)
11. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部)
12. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部前半)
13. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部後半)
14. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部前半)
15. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部後半)

＜準備学習等の指示＞
毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。

＜テキスト＞
ドイツ語訳聖書、ドイツ語のローズンゲン、ドイツ語賛美歌集等。必要に応じてコピーを配布。

＜参考書＞
必要に応じて配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
十分な出席、積極的な授業参加、期末試験によって評価する。

外国語科目・必修	
ドイツ語ＩＢｂ（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）	福嶋　揚
後期・１単位	＜登録条件＞通年(a,b)の登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
前期に引き続いて、プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きたドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学びたい。

＜授業の概要＞
前期に引き続いて、様々なテキストや音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。

＜履修条件＞
学部２年に履修。

＜授業計画＞

1. 礼拝の言葉
2. アンダハトの言葉(家庭で)
3. アンダハトの言葉(教会暦にあわせて)
4. 賛美歌のテキストに学ぶ(アドベント)
5. 賛美歌のテキストに学ぶ(クリスマス)
6. 賛美歌のテキストに学ぶ(受難節)
7. 賛美歌のテキストに学ぶ(復活祭)
8. 賛美歌のテキストに学ぶ(昇天祭)
9. 賛美歌のテキストに学ぶ(ペンテコステ)
10. 賛美歌のテキストに学ぶ(その他の様々な季節、テーマ)
11. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 Feiert Jesus から)
12. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 In Love with Jesus から)
13. ラジオ講演を聞く(カール・バルト)
14. 礼拝説教を聞く(カール・バルト)
15. 礼拝説教を聞く(現代の説教例から)

＜準備学習等の指示＞
毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。

＜テキスト＞
必要に応じて配布する。

＜参考書＞
必要に応じて配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
十分な出席、積極的な参加、および期末試験によって評価する。

外国語科目・選択	
英語Ⅱａ	高砂　民宣
前期・１単位	＜登録条件＞ 通年（a, b）の登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
英文の神学書に慣れ親しみ、読解能力を高めると共に、神学用語や慣用表現等も習得する。

＜授業の概要＞
比較的平易な英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。

＜履修条件＞
おもに学部２年生が対象。

＜授業計画＞
第１回：Unit 8: John 14-17　The Farewell Sayings (p. 90)より。
第２回：Jesus' Departure and His Promise (pp.90-93)
第３回：　　〃
第４回：The Paraclete (pp.93-94)
第５回：Abide in Me (pp.94-96)
第６回：　　〃
第７回：The Love Commandment (pp.96-97)
第８回：　　〃
第９回：Unity among Believers (p.98)
第10回：The Importance of Belief in Jesus (pp.98-99)
第11回：Opposition (pp.99-100)
第12回：　　〃
第13回：Jesus' Self-Disclosure in the Farewell Speeches (pp.101-102)
第14回：　　〃
第15回：Questions for Reflection (p. 103)

＜準備学習等の指示＞
毎回該当する箇所を予習して出席すること。

＜テキスト＞ Matson, Mark A., John., Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002.　（担当者が用意する）

＜参考書＞
授業の中で教員が指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。
※出席が２／３に満たない者は、評価の対象としない。

外国語科目・選択	
英語Ⅱｂ	高砂　民宣
後期・１単位	＜登録条件＞ 通年（a, b）の登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
英文の神学書に慣れ親しみ、読解能力を高めると共に、神学用語や慣用表現等も習得する。

＜授業の概要＞
比較的平易な英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。

＜履修条件＞
おもに学部２年生が対象。

＜授業計画＞
第１回：Unit 9: John 18-19　The Trial and Crucifixion of Jesus (p.104)より。
第２回：The Arrest of Jesus (18:1-14) pp.105-107
第３回：　　〃
第４回：　　〃
第５回：Peter's Denial (18:15-27) pp.107-108.
第６回：Pilate's Trial (18:28-19:16) pp.108-111.
第７回：　　〃
第８回：　　〃
第９回："The Jews" pp.111-112.
第10回：　　〃
第11回：The Crucifixion (19:17-37) pp.112-114.
第12回：　　〃
第13回：Jesus' Burial (19:38-42) pp.114-115
第14回：　　〃
第15回：Questions for Reflection p.115.

＜準備学習等の指示＞
毎回該当する箇所を予習して出席すること。

＜テキスト＞ Matson, Mark A., John., Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002.　（担当者が用意する）

＜参考書＞
授業の中で教員が指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。
※出席が２／３に満たない者は、評価の対象としない。

外国語科目・選択	
英語実践Ｉ	Ｗ．ジャンセン
後期・１単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。

＜授業の概要＞
英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。

第１回　About Myself
第２回　About Myself
第３回　About My Family
第４回　About My Family
第５回　About Time
第６回　About Time
第７回　About Transportation
第８回　About Transportation
第９回　About Meeting Others
第１０回　About Meeting Others
第１１回　About Drinks
第１２回　About Drinks
第１３回　About Snacks
弟１４回　About Snacks
第１５回　Overall Review

必要に応じて、英会話の力を養う。

＜準備学習等の指示＞
休まないこと。会話に参加すること。

＜テキスト＞
必要に応じて教室で配布する。

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席、ディスカッションの参加、ミニ・テストなど。
出席が２／３に満たない者は評価の対象としない。

外国語科目・選択	
英語実践Ⅱ	W. ジャンセン
後期・１単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。

＜授業の概要＞
英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。

第１回　About The Weather
第２回　About The Weather
第３回　About Money
第４回　About Money
第５回　About Shopping
第６回　About Shopping
第７回　About Birthdays
第８回　About Birthdays
第９回　About Clothes
第１０回　About Clothes
第１１回　About Directions
第１２回　About Directions
第１３回　About Home
弟１４回　About Home
第１５回　Overall Review

必要に応じて、英会話の力を養う。

＜準備学習等の指示＞
休まないこと。会話に参加すること。

＜テキスト＞
必要に応じて教室で配布する。

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席、ディスカッションの参加、ミニ・テストなど。
出席が２／３に満たない者は評価の対象としない。

外国語科目・選択	
ドイツ語Ⅱａ	福嶋　揚
前期・１単位	＜登録条件＞通年(a,b)の登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
ドイツ語神学書の講読。神学的な諸概念と思考法の習得。

＜授業の概要＞
現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読む。ユンゲルは本書において、二十世紀のエキュメニズムの動向をふまえつつ、宗教改革の伝統である信仰義認論の本質を解説する。西洋思想の「正義」論の系譜の中で、キリスト教的な「正義」論としての義認論が持つ独自の現代的意義を明らかにした、必読の書である。前期の前半においては、信仰義認論をめぐる聖書その他の基本的なテキストをドイツ語で読み、準備をととのえる。それからユンゲルの著書をドイツ語で丁寧に読み進めていきたい。

＜履修条件＞
初級文法を習得していること。

＜授業計画＞

1. 序論　ユンゲルの著書への入門など
2. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(1)　旧約聖書より
3. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(2)　新約聖書より
4. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(1)　ルター
5. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2)　メランヒトン
6. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2)　和協信条
7. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(3)　トリエント公会議の教令
8. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(1)　カール・バルト
9. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(2)　ハンス・キュンク
10. Jüngel, 1-4. （頁数。以下同様。）
11. 4-11.
12. 43-48.
13. 48-52.
14. 52-58.
15. 58-65.

＜準備学習等の指示＞
毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。

＜テキスト＞
Eberhard Jüngel, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ^{3}1999. その他のテキストは必要に応じて配布する。

＜参考書＞
特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。

外国語科目・選択	
ドイツ語Ⅱｂ	福嶋　揚
後期・１単位	＜登録条件＞通年(a,b)の登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
ドイツ語神学書の講読。神学的な諸概念と思考法の習得。

＜授業の概要＞
ドイツ語Ⅱa(前期)を参照。前期に続いて、現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読み進める。

＜履修条件＞
初級文法を習得していること。

＜授業計画＞

1. Jüngel, 65-74.(頁数。以下同様。)
2. 75-86.
3. 86-97.
4. 97-106.
5. 106-114.
6. 114-125.
7. 126-143.
8. 143-155.
9. 156-169.
10. 169-180.
11. 180-190.
12. 191-201.
13. 201-209.
14. 210-220.
15. 221-234.

＜準備学習等の指示＞
毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。

＜テキスト＞
Eberhard Jüngel, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ^{3}1999. その他の資料は必要に応じて配布する。

＜参考書＞
特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。

この科目については、別途配付のものを参照すること。

外国語科目・選択	
ドイツ語Ⅱｃ	
前期・１単位	＜登録条件＞
＜授業の到達目標及びテーマ＞	
＜授業の概要＞	
＜履修条件＞	
＜授業計画＞	
＜準備学習等の指示＞	
＜テキスト＞	
＜参考書＞	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞	

この科目については、別途配付のものを参照すること。

外国語科目・選択	
ドイツ語Ⅱｄ	
後期・１単位	＜登録条件＞
＜授業の到達目標及びテーマ＞	
＜授業の概要＞	
＜履修条件＞	
＜授業計画＞	
＜準備学習等の指示＞	
＜テキスト＞	
＜参考書＞	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞	

保健体育科目	
体育Ⅰ	高橋　伸
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
自らの日常生活、活動を有意義で活動的に過ごすために、運動を中心としたレクリエーション活動の基礎的な知識、態度，技術を身につけるとともに、他者への働きかけの方法も学ぶ。

＜授業の概要＞
1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識するとともに、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得する。
2. 宣教・教会活動などに役立つレクリエーション活動の理論と各種活動、及び指導法の習得を目指す。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
1. オリエンテーション　（クラスの進め方、体育の考え方、レクリエーションの考え方）
2. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際１　（準備体操の意義、正しい体操の方法、ウォーキングフォーム、脈拍を使った体力、運動強度の見極め方）
3. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際２　（同上）
4. ソフトボール１　＊東神大運動会に向けて　（用具の知識と安全、キャッチボール・バッティングの基本）
5. ソフトボール２（試合へ向けての基礎技術／キャッチ＆スロー、ピッチング、連係プレー）
6. ソフトボール３（基本ルールの理解、模擬試合）
7. ニュースポーツ１（フライングディスク／投げ方の基本、取り方の基本、ディスクゴルフの楽しみ方）
8. ニュースポーツ２（ガガ、ユニホック／ルール・安全管理の理解、指導法、実習）
9. ニュースポーツ３（クッブ／ルール・安全管理の理解、指導法、実習）
10. ニュースポーツ４（ペタンク／ルール・安全管理の理解、指導法、実習）
11. ニュースポーツ５（クロッケー／ルール・安全管理の理解、指導法、実習）
12. キャンプ・クラフト１（火起し／用具の理解、火起こしの基本、お湯沸かし）
13. キャンプ・クラフト２（飯盒炊飯／飯盒炊飯の方法、焚き火の管理法）
14. レクリエーション指導法（集団をリードするための具体的指導法）
15. まとめ

＜準備学習等の指示＞
1. 運動できる服装、又は活動相応の衣服（キャンプ・クラフト）で参加すること。
2. 体調に留意すること。

＜テキスト＞
適時、講師が準備する

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
1. 全授業回数の２／３以上出席したものに対して評価を行う。
2. 技術（60%）・知識（20%）・態度（20%）について評価する。

保健体育科目	
体育Ⅱ	岡田　光弘
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
身体を動かす楽しさと喜びを認識し、各自の体力に合わせながら、練習法、ルール、試合に必要な技術について学ぶことで、生涯スポーツの基礎を獲得すること

＜授業の概要＞
硬式庭球、卓球の試合が行えるようになるために、以下の事柄について学びます。
１．ゲームを構成するすべての技術について、その技術を習得する。
２．ゲームを構成するすべてのルールを習得する。
３．学期が終わったあとも自己学習ができるように練習の仕方を学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
１．オリエンテーション
２．コオーディネーション・トレーニングの理論と実践
３．フォアハンドボレー、バックハンドボレー（以下、テニス）
４．フォアハンド・ストローク
５．バックハンド・ストローク
６．サービスとレシーブ
７．テニスのルールと用具の歴史、ミニゲーム
８．ダブルス・ゲーム
９．シングルス・ゲームとテニスのまとめ
10. ピンポン、卓球のルールと用具の歴史（以下、卓球）
11. バックハンド・ショート（またはハーフボレー）、ドライブ
12. フォアハンド・ストローク（ドライブ打法）
13. 多球練習による分習法、制限付きゲームによる全習法
14. シングルスとダブルスの試合
15. まとめ

＜準備学習等の指示＞
１．運動に適した服装に着替えること
２．それぞれの種目に適した靴を用意すること
３．体調に十分留意すること

＜テキスト＞
井上俊・菊幸一（編）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房
（購入の必要はありません。）

＜参考書＞
橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社
（購入の必要はありません。）
その他、授業でお伝えします。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
技能：60%　時間ごとの観察により評価します。
知識：20%　実際にゲームを進行していく知識を評価します。
態度：20%　運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。
出席が 2/3 に満たない場合、成績評価の対象にしません。

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ｉ	大住　雄一
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞旧約聖書正典形成史、本文伝承史、モーセ五書批判を概説し、もって旧約聖書とは何かという問いに、歴史的文献学的見地から取り組む。

＜授業の概要＞旧約聖書正典の成立過程、およびその歴史的背景を概説し、正典として確定した本文の伝承の歴史を概観する。その後、モーセ五書批判の諸問題を考察する。

＜履修条件＞神学基礎科目 A を履修済みまたは並行して履修していること。
旧約聖書神学ＩはII、IIIより先に受講することが望ましい。

＜授業計画＞
１．　導入、　近代の旧約聖書研究（１）
　旧約聖書緒論について、
　緒論学の歴史：アイヒホルンからヴェルハウゼンまで
２．　近代の旧約聖書研究（２）
　緒論学の歴史：宗教史学派と伝承史研究、最近の動向
３．　正典とは何か
　正典の位置づけ、正典論と正典批判、新約と旧約
４．　旧約正典形成史
５．　正典と本文
　本文批判の位置づけ、ヒブル語本文の確立、ヒブル語本文の伝承
６．　ヒブル語本文伝承の歴史
　ソーフェリーム、マソラ、本文校訂の歴史
７．　ギリシャ語訳旧約聖書その他の古代訳概説
　七十人訳とその改訂作業の歴史、そのほかのギリシャ語訳、
　オリゲネスの業績、ヒエロニムス
８．　モーセ五書批判とは何か
９．　モーセ五書批判　文書仮説
１０．モーセ五書批判　伝承史
１１．「ヤーウィスト」と「エローヒスト」
１２．「申命記的歴史家」と「祭司」
１３．「祭司文書」「祭司的編集」あるいは「祭司的改訂」
１４．物語と法、預言者への展望
１５．まとめと知識の確認

＜準備学習等の指示＞旧約聖書、とくにモーセ五書を熟読すること。

＜テキスト＞左近淑『旧約聖書著論講義』教文館（2004 年増刷版）。現在はオン・デマンド。
第１回授業までに各自で購入のこと

＜参考書＞アップデイトされたレジュメと文献表を授業中に配付する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。
理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅱ	大住　雄一
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞　旧約聖書諸文学の成立過程とその歴史的背景から、旧約正典ならびにユダヤ教正典の構造と諸文書間の緊張関係を明らかにする。

＜授業の概要＞申命記と申命記的歴史、歴代誌的歴史、知恵文学、さらに詩文学の概要を学び、それらの神学的意味を考察する。

＜履修条件＞
「旧約聖書神学Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。

＜授業計画＞

1．　＜モーセのような預言者たち　そしてヨブ＞　律法と諸文学
2．　＜申命記的歴史であることのしるしと範囲＞　M・ノートの功績
3．　＜申命記的歴史家は一人だったか＞　M・ノートを越えて
4．　＜歴史の中に残っている伝承　そして「最古の歴史文学」＞
5．　＜申命記と申命記的歴史＞　王国末期の法と捕囚後の法
6．　＜歴代誌的歴史＞　歴史のもう一つのヴァージョン
7．　＜エズラとネヘミヤは、いつ国に帰ってきたか＞　歴代誌的歴史の背景
8．　＜ユダヤ教の成立と正典＞　サマリヤ教団の成立は、正典成立の証拠になるか
9．　＜知恵文学の国際性＞　エジプト、エドム、、、、
10.　＜ヨブ記＞　神義論的問いと、非神義論的答え
11.　＜コーヘレトと箴言＞　生きる意味と知識の限界
12.　＜律法の賛歌＞　五書に向かい合う讃美
13.　＜訴えの詩＞　苦難の時に
14.　＜詩編の読み方＞　御言葉に生きる
15.　＜まとめと知識の再確認＞

＜準備学習等の指示＞　旧約聖書の諸文学を熟読すること。

＜テキスト＞　左近淑『旧約聖書著論講義』教文館（2004 年増刷版）。現在はオン・デマンド。第１回授業までに各自で購入のこと

＜参考書＞　アップデイトされたレジュメと文献表を授業中に配付する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅲ	小友　聡
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
預言者とは何か、また預言書とは何か。そもそも預言とは何なのか。この本質的な問題について概論的に考察する。

＜授業の概要＞
まず預言者の総論を学び、各論として各文書を学ぶ。また黙示文書も扱う。

＜履修条件＞
旧約神学Ｉを履修済みまたは並行して履修中であること。

＜授業計画＞

１．　オリエンテーション
２．　預言者総論：問題点と研究史概観
３．　預言者総論：古典預言者の否定的同定と肯定的同定
４．　第１イザヤ：イザヤ書の構成、イザヤの召命
５．　第１イザヤ：メシア預言の成立
６．　第２イザヤ：独立性と統一性、精神的環境
７．　第２イザヤ：歴史回復の神学
８．　第３イザヤ
９．　エレミヤ：内容区分と編集、エレミヤの時代
１０．　エレミヤ：エレミヤの活動、エレミヤのメッセージ
１１．　エゼキエル
１２．　12 小預言者
１３．　ダニエル書
１４．　質疑応答
１５．　全体的総括

＜準備学習等の指示＞
教科書をよく読み、また引用される重要な聖書箇所を精読して、預言について問題意識を持つこと。

＜テキスト＞
左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館、を各自購入のこと。

＜参考書＞
授業中に指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末試験によって成績をつける。理由もなく３分の１以上欠席した場合は試験を受けることができない。

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書釈義ａ	大住　雄一
前期・２単位	＜登録条件＞　当年度中にａｂとも登録すること

＜授業の到達目標及びテーマ＞　旧約聖書に基づく説教を目指して釈義の課題を考え、また、その手法を学ぶ。

＜授業の概要＞　言語学的、文献学的、文学的、歴史学的な方法と知見を土台とする釈義が、どのようにして神学的営為となりうるか、神学的に考えるとはどのようなことであり、釈義においてどのように位置づけられるかを論じる。また神学辞典や注解書など、第二次文献の使い方を解説する。今回は出エジプト記 12 章 15-20 節に方法をあてはめてみる。

＜履修条件＞　旧約聖書神学Ｉを履修済みであることが望ましい。

＜授業計画＞

出エジプト記 12 章 15-20 節をめぐって

１．　釈義の道具立て
２．　聖書翻訳の問題
３．　注解書ガイド
４．　本文批判
５．　文献批判
６．　伝承史
７．　編集史
８．　様式史の思想的基盤と問題点
９．　テキストの最終形態
１０．歴史的文脈と釈義
１１．テキストの神学的考察
１２．正典批判
１３．釈義の手順
１４．釈義と説教
１５．まとめと知識の再確認

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞　普段出席している教会で使っている日本語訳聖書。また、授業内容のレジュメを毎回配付する。

＜参考書＞　第一回授業の中で釈義方法論の教科書とその入手方法を紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、小レポートを提出することができない。

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書釈義ｂ	大住　雄一
後期・２単位	＜登録条件＞　当年度中にａｂとも登録すること

＜授業の到達目標及びテーマ＞　旧約聖書に基づく説教を目指して釈義の課題を考え、また、その手法を学ぶ。

＜授業の概要＞　旧約聖書釈義ａで学ぶ釈義方法を、具体的に旧約テキストに適用して釈義を試みる。本年度は申命記１６章を読む。

＜履修条件＞　本年度に旧約聖書釈義ａを履修したことを前提とするが、ｂのみの履修可。

＜授業計画＞

１．　申命記１６章は何を語っていると思うか
２．　諸翻訳の読み比べ
３．　申命記注解書ガイド
４．　申命記１６章の本文
５．　申命記１６章の形
６．　申命記１６章の伝承史
７．　申命記１６章の編集史
８．　申命記１６章はどのようなテキストか
９．　テキストの最終形態
１０．　釈義レポートの書き方
１１．　申命記１６章の歴史的文脈
１２．　神学的考察
１３．　正典批判　新約聖書における申命記１６章
１４．　釈義と説教
１５．　まとめ

＜準備学習等の指示＞　授業は演習形式で行うので、各回の授業に先立って、扱われる方法をテキストに適用してみること。

＜テキスト＞　普段出席している教会で使っている日本語訳聖書。また、授業内容のレジュメを毎回配付する。

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　授業最終日に申命記１６章（またはその一部）に関する釈義レポートを提出する。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅰ	中野　実
前期・２単位	＜登録条件＞主として学部２～３年生のクラス

＜授業の到達目標及びテーマ＞新約聖書を学問的に読むことの信仰的神学的意義について考え、理解する能力をやしなうことがこのクラスの目標。

＜授業の概要＞新約聖書神学Ⅰでは、主に講義を通して、まず序論として、聖書とはなにか、聖書学、聖書神学とは何か、聖書正典とは何か、などについて学ぶ。次に各論として、福音書について学ぶ。

＜履修条件＞新約聖書神学Ⅱと通年で履修する事。

＜授業計画＞
①聖書を学問的に読むとは？　聖書とは何か？
②聖書を学問的に読むとは？　聖書を学問の対象にするとは？
③聖書を学問的に読むとは？　聖書学とは？聖書の批判的研究。
④聖書を学問的に読むとは？　近代、現代聖書学のルーツについて
⑤新約聖書とは何か？　新約聖書という名称について
⑥新約聖書とは何か？　旧約聖書について
⑦新約聖書とは何か？　新約聖書の文学
⑧新約聖書とは何か？　正典としての新約聖書
⑨新約聖書とは何か？　新約聖書の写本について
⑩新約聖書とは何か？　新約聖書時代史について
⑪福音書研究　福音書とは何か？　福音と福音書
⑫福音書文学とは？
⑬共観福音書問題１　共観福音書とは何か？　それらの関係に関する仮説
⑭共観福音書問題２　マルコ優先説、二資料仮説について
⑮共観福音書問題３　Ｑ資料などについて
　顔ぶれ、進み具合などを考慮しつつ、授業計画を変更する場合がある。

＜準備学習等の指示＞聖書を日頃からよく読むこと。

＜テキスト＞旧・新約聖書。　旧約聖書も必ず持ってくる事。

＜参考書＞樋口、中野『聖書学用語辞典』日本キリスト教団出版局、およびタイセン『新約聖書：歴史、文学、宗教』教文館。その他、必要な物は、クラスで指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席重視。出席が３分の２に達しない場合は、原則として評価の対象としない。出席（＋クラスでの姿勢）に加え、聖書クイズ、聖書学用語のテスト、レポートなどによって総合的に評価する。

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅱ	中野　実
後期・２単位	＜登録条件＞学部２～３年生が中心のクラス
＜授業の到達目標及びテーマ＞主に講義を中心に、新約聖書の四福音書に関する理解を深めることが目標。	
＜授業の概要＞内容的には、新約聖書神学Ｉの続き。前期に学んだ福音書研究に関する基本的知識を前提に、四つの正典福音書について学ぶ。	
＜履修条件＞新約聖書神学Ｉと通年で履修する事。	
＜授業計画＞ ⑴マルコ福音書：緒論的歴史的諸問題 ⑵マルコ福音書：文学的諸問題　構成、物語展開 ⑶マルコ福音書：神学的諸問題 ⑷マタイ福音書：緒論的歴史的諸問題 ⑸マタイ福音書：文学的諸問題　構成、物語展開 ⑹マタイ福音書：神学的諸問題 ⑺ルカ福音書：緒論的歴史的諸問題 ⑻ルカ福音書：文学的諸問題　構成、物語展開 ⑼ルカ福音書：神学的諸問題 ⑽ヨハネ福音書：歴史的諸問題 ⑾ヨハネ福音書：文学的諸問題　構成、物語展開 ⑿ヨハネ福音書：神学的諸問題 ⒀ルカ文書について ⒁ヨハネ文書について ⒂まとめ 顔ぶれ、進み具合を考慮しつつ、スケジュールに変更を加える場合がある。	
＜準備学習等の指示＞新約神学Ｉの項目を参照。	
＜テキスト＞旧・新約聖書。および後期になったら、ギリシア語の新約聖書も持参すること。	
＜参考書＞必要に応じて、クラスで指示する。	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席が３分の２に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。その他、クラスでの姿勢、試験（あるいはレポート）などによって、総合的に評価する。	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅲ	焼山　満里子
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞使徒パウロの伝道活動と神学をパウロ書簡特にコリントの信徒への手紙一を通して学ぶ。

＜授業の概要＞パウロの活動、書簡の概観の後、コリントの信徒への手紙一を毎回一章ずつ読み、検討する。

＜履修条件＞ギリシア語履修済みのこと。

＜授業計画＞

１．パウロの伝道旅行　使徒言行録とパウロ真正書簡の比較による概観

２．コリント一１章、１６章　手紙の始まりと終わり

３．コリント一２章、十字架の言葉

４．コリント一３章、霊の人と肉の人

５．コリント一４章、パウロの使命

６．コリント一５章、６章、教会内での紛争の処理

７．コリント一７章、結婚について

８．コリント一８章、偶像に供えられた肉

９．コリント一９章、使徒の権利とパウロの権利放棄

１０．コリント一１０章、悪霊とは

１１．コリント一１１章、礼拝における秩序の問題

１２．コリント一１２章、１３章、愛

１３．コリント一１４章、異言と預言

１４．コリント一１５章、キリストの復活

１５．総括

＜準備学習等の指示＞復習のために毎回定められた課題の提出、予習のために当日の聖書箇所、テキストを読んで出席すること。

＜テキスト＞R.B.ヘイズ『現代聖書注解　コリントの信徒への手紙一』日本基督教団出版局、２００１年
各自準備のこと。

＜参考書＞適宜紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席状況、授業参加、課題、期末試験を総合的に評価する。

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書釈義ａ	中野　実
前期・２単位	＜登録条件＞学部４年を中心としたクラス

＜授業の到達目標及びテーマ＞新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ事が目標

＜授業の概要＞前期は、概論ののち、フィー『新約聖書の釈義』を用いながら、釈義の方法を学ぶ。

＜履修条件＞ギリシア語を既に履修済みである事。通年で履修する事。

＜授業計画＞
① オリエンテーション：クラスの目標と課題について
② 釈義とは何か？　釈義の具体的課題について
③ フィー『新約聖書の釈義』序論および第１章の説明
④ 第１章の続き。釈義の全行程を概観。
⑤ ステップ１～２　歴史的脈略、章句の区切りなど
⑥ ステップ３　段落・ペリコーペの熟知
⑦ ステップ４　文の構成と統語的関係の分析
⑧ ステップ５　本文の確定：本文批評
⑨ ステップ５　本文批評つづき
⑩ ステップ６　文法の分析
⑪ ステップ７　語の分析：　ワード・スタディー
⑫ ステップ８　歴史的文化的背景の探求
⑬ 書簡の釈義　ステップ 9-10
⑭ 書簡の釈義　ステップ 11
⑮ 福音書の釈義　ステップ９

顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。

＜準備学習等の指示＞釈義は、ただ講義を聴いているだけでは身に付かない。実際に自分で試みて見る事が必要。釈義はある意味で職人芸。苦労して身につけるしか道はない！

＜テキスト＞ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』永田訳（教文館、1998 年）。クラスの初回までに各自が購入しておくこと。旧・新約聖書およびギリシア語の新約聖書。

＜参考書＞必要に応じて、クラスで指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席重視。出席が３分の２に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。毎回のクラスでの姿勢、期末の課題（試験あるいはレポート）などによって、総合的に評価する。

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書釈義ｂ	中野　実
後期・２単位	＜登録条件＞学部４年を中心としたクラス

＜授業の到達目標及びテーマ＞新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ事が目標。

＜授業の概要＞後期は、近・現代の聖書学において培われてきた方法論を、おもに講義を通して学ぶ。歴史批評学的方法論、およびそれを乗り越えようとする新しい方法論について、最後に説教のための釈義について学ぶ。

＜履修条件＞ギリシア語を既に履修済みである事、通年で履修する事。

＜授業計画＞
１　フィーの教科書のつづき、福音書の釈義　ステップ　10
２フィーの教科書のつづき、福音書の釈義　ステップ11
３総合と展開のための講義　歴史批評学的方法論　本文批評
４歴史批評学的方法論　文献批評
５歴史批評学的方法論　宗教史
６歴史批評学的方法論　様式史
７歴史批評学的方法論　編集史
８歴史批評学を乗り越える方法論　物語批評
９歴史批評学を乗り越える方法論　読者反応批評、
10 歴史批評学を乗り越える方法論　フェミニスト批評
11 歴史批評学を乗り越える方法論　正典批評
12 説教のための釈義とは何か？　証言としての説教
13 釈義から黙想へ、そしてさらに説教へ？
14 説教の準備について　聖書テクスト選択、釈義、
15 説教の準備について　自分の言葉の獲得、説教を書く、語る。
　　顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。

＜準備学習等の指示＞前期の項目を参照。

＜テキスト＞前期の項目を参照。

＜参考書＞必要に応じて、クラスで指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席重視。出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象とはしない。出席、クラスでの姿勢、期末の課題などをとおして、総合的に評価する。

専門教育科目・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅰ（1,2）	三永　旨従
前期・４単位	＜登録条件＞ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解能力を養うことを目的とする。

＜授業の概要＞
前期は基本的文法を中心とする。
新約聖書のギリシャ語理解のために、テキストに則して基本文型を身につけていく。目的はあくまで新約文書群の読解にあるために練習問題は、ギリシャ語の日本語訳に限定する。授業の合間に、少しずつ、ギリシャ語新約聖書に慣れることも同時に行なう。前後期を通じ、特に原典で新約文書群を読むことの具体的な意義、及びそこから生じる違いについても学んでゆく。

＜履修条件＞
ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。

＜授業計画＞
1. 新約聖書を原典で読むことについて
2. 写本について
3. 新約聖書のギリシャ語の特色
4. 文字と発音
5. 単語と音節
6. ギリシャ語のアクセントの特色
7. 句読点
8. ギリシャ語動詞の活用について
9. 動詞活用－現在形
10. ギリシャ語名詞の特色
11. 名詞の変化－男性形
12. 名詞の変化－女性形
13. ギリシャ語前置詞の特色
14. 前置詞の用法
15. 受動形能動態について
16. 中動形動詞のいろいろ
17. 動詞活用－中動形
18. 動詞活用－受動形
19. ギリシャ語人称代名詞の特質
20. 人称代名詞
21. 未完了形動詞の特質
22. 動詞活用－未完了形
23. ギリシャ語の過去時制について
24. アオリスト形動詞の特質
25. 動詞活用－第一アオリスト形
26. 動詞活用－第二アオリスト形
27. ギリシャ語の形容詞の特質
28. ギリシャ語の形容詞の性、数、格
29. 形容詞の変化－男性形
30. 形容詞の変化－女性形

＜準備学習等の指示＞
暗記するべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自さらにはグループ学習で反復練習する時間を取ることが望ましい。

＜テキスト＞
・大貫隆著『新約聖書　ギリシャ語入門』岩波書店（学生各自で用意する。）
・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）

＜参考書＞
なし

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（口頭試問）

専門教育科目・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅱ	三永　旨従
後期・２単位	＜登録条件＞ギリシャ語Ⅰの履修

＜授業の到達目標及びテーマ＞
ギリシャ語文法の理解と読解能力を習得していく中で、新約聖書原典を辞書その他の手段を用いながらも一人で読解できる能力を養うことを目的とする。

＜授業の概要＞
ギリシャ語Ⅰに続けて基礎文法を終わらせ、具体的な新約文書群の読解に入る。
各授業毎にギリシャ語特有の文法体系に由来する特徴を具体的にテキストにあたって学ぶ。基本文法を終わらせると同時に、実際に新約文書群を読む際に、大きな障害となり易い点（分詞構文、不定詞構文等）にも焦点をあてる。上記の留意点を考慮しつつ、より平易な新約文書を実際に読んでいく。

＜履修条件＞
ギリシャ語Ⅰの履修

＜授業計画＞
1.　動詞の変化－分詞
2.　母音融合動詞
3.　流音動詞
4.　動詞の変化－不定法
5.　動詞の変化－希求法
6.　疑問代名詞
7.　関係代名詞
8.　動詞の変化－命令法
9.　特殊形動詞
10.　冠詞とその用法
11.　動詞の変化－接続法
12.　数詞
13.　独立属格の構文
14.　不定詞+名詞の目的格の構文
15.分詞の述語的用法

＜準備学習等の指示＞
暗記するべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自反復練習する時間を取ることが望ましい。

＜テキスト＞
・大貫隆著『新約聖書　ギリシャ語入門』岩波書店（学生各自で用意する。）
・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE または UBS 版 Greek New Testament（学生各自で用意する。）
・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）

＜参考書＞
なし

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（筆記試験）

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅰａ	芳賀　力
前期・２単位	＜登録条件＞通年(a,b)の登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
キリスト教の基本的な教理全般について、必要な知識を身につけ、神学の総合的理解を深める。

＜授業の概要＞
前期は神学の方法論、啓示論、聖書論、信条論、神論、三位一体論、創造論、人間論について学ぶ。

＜履修条件＞
神学通論を同時に履修していること。

＜授業計画＞
第１回：　神学の生の座について考察する。

第２回：　自然と歴史における神の啓示について考察する。

第３回：　神の名の啓示と神の人格性について考察する。

第４回：　啓示の三位一体的構造について考察する。

第５回：　聖書のテキスト性について考察する。

第６回：　聖書の権威について考察する。

第７回：　聖書の正典性について考察する。

第８回：　聖書の解釈について考察する。

第９回：　これまでの議論を振り返り、総括する。

第 10 回：信条と教理について考察する。

第 11 回：神の存在について考察する。

第 12 回：三位一体論について考察する。

第 13 回：創造と摂理について考察する。

第 14 回：人間について考察する。

第 15 回：これまでの議論を振り返り、総括する。

＜準備学習等の指示＞
ノートをこまめに取り、内容をそのつど正確に把握しておくこと。

＜テキスト＞
授業の中で適宜指示する。

＜参考書＞芳賀力『神学の小径Ⅰ』教文館、2008 年。芳賀力『神学の小径Ⅱ』教文館、2012 年。希望者には著者割引で頒布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
二回の総括を行い、それまで授業で取り扱った主題についての理解度をチェックする。

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ｉｂ	芳賀　力
後期・２単位	＜登録条件＞通年(a,b)の登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
キリスト教の基本的な教理全般について、必要な知識を身につけ、神学の総合的理解を深める。

＜授業の概要＞
後期は罪論、キリストの人格と業、救済論、聖霊論、教会論、聖礼典論、終末論について学ぶ。

＜履修条件＞
神学通論を同時に履修していること。

＜授業計画＞
第１回：　罪の問題について考察する。

第２回：　キリストの人格について考察する。

第３回：　キリストの業について考察する。

第４回：　キリスト論の成立について考察する。

第５回：　救済の祭儀的な語りについて考察する。

第６回：　救済の軍事的、商法的な語りについて考察する。

第７回：　救済の民法的な語りについて考察する。

第８回：　救済の刑法的な語りについて考察する。

第９回：　これまでの議論を振り返り、総括する。

第 10 回：救済の存在論的な語りについて考察する。

第 11 回：聖霊と聖化について考察する。

第 12 回：教会と選びについて考察する。

第 13 回：洗礼と聖餐について考察する。

第 14 回：神の国について考察する。

第 15 回：これまでの議論を振り返り、総括する。

＜準備学習等の指示＞
ノートをこまめに取り、内容をそのつど正確に把握しておくこと。

＜テキスト＞
授業の中で適宜指示する。

＜参考書＞
芳賀力『救済の物語』日本基督教団出版局、1997 年。希望者には著者割引で頒布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
二回の総括を行い、それまで授業で取り扱った主題についての理解度をチェックする。

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅱａ	神代　真砂実
前期・２単位	＜登録条件＞組織神学Ⅱｂと通年で登録（履修）すること

＜授業の到達目標及びテーマ＞
キリスト教倫理学の基礎および諸問題について学ぶ。

＜授業の概要＞
前期は主にキリスト教倫理の形成に取り組むにあたっての予備的議論を扱う。

＜履修条件＞
組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。

＜授業計画＞
１．序――過渡期のキリスト教倫理学
２．Ⅰ．キリスト教倫理と倫理的課題
　　１）倫理的課題、２）一般倫理の諸側面、３）行為についての規範的倫理学の形成
３．　４）倫理学と価値についての理論、５）存在についての規範的倫理学の形成
４．　６）倫理学の正当化
５．　７）正当化の諸説
　Ⅱ．ギリシャの倫理学的伝統
　　１）キリスト教とギリシャの倫理学的伝統、２）プラトン
６．　３）アリストテレス
７．　４）エピクロス、５）ストア派
８．　６）プロティノス
　Ⅲ．聖書の倫理
９．　１）旧約聖書
10.　２）イエス
11.　３）パウロ
12. Ⅳ．伝統的モデル
　　１）アウグスティヌス
13.　２）トマス・アクィナス
14.　３）宗教改革者達
15. 前期のまとめ

＜準備学習等の指示＞
よくノートをとること。

＜テキスト＞
Ｈ・リチャード・ニーバー、『キリストと文化』、赤城泰訳、（日本キリスト教団出版局、オンデマンド）。

＜参考書＞
特になし。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期中の小課題と期末のレポートによる。

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅱｂ	神代　真砂実
後期・２単位	＜登録条件＞組織神学Ⅱａと通年で登録（履修）すること

＜授業の到達目標及びテーマ＞
前期と同じ。

＜授業の概要＞
後期は、キリスト教倫理の形成について考える。

＜履修条件＞
前期と同じ。

＜授業計画＞
１．Ⅴ．現代的モデル
　　１）社会秩序のキリスト教化、２）超越の倫理学
２．　３）規範としての愛、４）弟子の倫理
３．　５）解放の倫理学
４．　６）徳と性格、７）福音派
５．　８）まとめ
　Ⅵ．キリスト教倫理と現代の状況
　　１）現代の状況
６．　２）キリスト教倫理と人間の倫理学的探求①普遍性・②神の意志・③善・④人間中心性・⑤キリスト教による変革
７．　２）キリスト教倫理と人間の倫理学的探求⑥自然主義からの脱出・⑦キリスト教倫理の普遍性
　　３）共同体に基礎を置くキリスト教倫理学①全体性・②徳
８．　３）共同体に基礎を置くキリスト教倫理学③潜在的危険・④諸宗教の伝統・⑤キリスト教倫理の独自性
９．Ⅶ．キリスト教倫理学の基礎
　　１）啓示
10.　２）神学的基礎①神
11.　２）神学的基礎②人間・③キリスト教的生活の中心・④倫理的生活の方向性
12. Ⅷ．キリスト教倫理の内容――包括的愛
　　１）キリスト教的な愛の理解の基礎
13.　２）愛の倫理、３）愛とキリスト教倫理、４）愛の倫理とキリスト教共同体
14. おわりに――礼拝と倫理
15. 後期のまとめ

＜準備学習等の指示＞
（前期と同じ。）

＜テキスト＞
（前期と同じ。）

＜参考書＞
特になし。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期中の小課題と期末のレポートによる。

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅲａ	芳賀　力
前期・２単位	＜登録条件＞通年(a, b)の登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
弁証学とは、教会の信仰にしっかり立ち、福音の真理性を同時代に向かって明証する学問である。伝道するために必要な基礎理論と考え方を身につける。

＜授業の概要＞
前期では信仰と理性、信仰と科学、無神論、宗教批判、世俗化論のテーマに取り組む。

＜履修条件＞
組織神学Ⅰ、Ⅱを履修していること。

＜授業計画＞
第１回：弁証学の課題と方法について、序論的な考察を行う。

第２回：福音と文化の関係について考察する。

第３回：信仰と理性の関係について考察する。

第４回：知解を求める信仰について考察する。

第５回：信仰と科学をめぐって、T.F.トーランスの見解を考察する。

第６回：信仰と科学をめぐって、A.マクグラスの見解を考察する。

第７回：無神論の立場からなされた宗教批判を考察する。

第８回：神学的な立場からなされた有神論批判を考察する。

第９回：カール・バルトの宗教批判を考察する。

第 10 回：預言者的な立場からなされた宗教批判を考察する。

第 11 回：ゴーガルテンとコックスの世俗化論を考察する。

第 12 回：T.ルックマンの世俗化論を考察する。

第 13 回：P.バーガーの世俗化論を考察する。

第 14 回：レーヴィット、ブルーメンベルクの近代化論を考察する。

第 15 回：これまでの議論を総括する。

＜準備学習等の指示＞
ノートを取って、よく復習しておくこと。

＜テキスト＞
授業の中で指示する。

＜参考書＞芳賀力『神学の小径Ⅰ』教文館、2008 年。芳賀力『神学の小径Ⅱ』教文館、2012 年。希望者には著者割引で頒布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席を重視する。総括としてレポートをまとめてもらう。

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅲｂ	芳賀　力
後期・２単位	＜登録条件＞通年(a, b)の登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
弁証学とは、教会の信仰にしっかり立ち、福音の真理性を同時代に向かって明証する学問である。伝道するために必要な基礎理論と考え方を身につける。

＜授業の概要＞
後期では宗教的多元主義、多元的社会における共同体論、神義論的諸問題のテーマに取り組む。

＜履修条件＞
組織神学 I、II を履修していること。

＜授業計画＞
第１回：J.ヒック、ベイリー、ランプらの宗教的多元主義を考察する。

第２回：宗教的排他主義、包括主義、多元主義を考察する。

第３回：宗教的な原理と人格の分離を考察する。

第４回：多元主義と A.マッキンタイアーの共同体論を考察する。

第５回：多元主義と R.ベラーの共同体論を考察する。

第６回：多元主義と M.ウォルツァーの共同体論を考察する。

第７回：G.ローフィンクと使徒的共同体論を考察する。

第８回：パラクレーシスと使徒的共同体論を考察する。

第９回：神義論的問いを神学的に取り扱う方法論を考察する。

第 10 回：悪の認識をめぐる問題を考察する。

第 11 回：悪の由来をめぐる問題を考察する。

第 12 回：悪の理由をめぐる問題を考察する。

第 13 回：悪の克服をめぐって、義認論と復活論を考察する。

第 14 回：悪の克服 II をめぐって、聖霊論と終末論を考察する。

第 15 回：これまでの議論を総括する。

＜準備学習等の指示＞
ノートを取って、よく復習しておくこと。

＜テキスト＞
拙著『使徒的共同体』教文館、2004 年、拙著『自然、歴史そして神義論』日本基督教団出版局、1991 年

＜参考書＞
授業の中で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席を重視する。総括としてレポートをまとめてもらう。

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅰ	関川　泰寛
前期・２単位	＜登録条件＞　特に無し

＜授業の到達目標及びテーマ＞
古代教会史に関わる事項、人名、著作などの正確な知識を習得するとともに、古代教会史の諸問題を整理して概観できる能力を養う。

＜授業の概要＞
古代教会史を講義する。基礎的な知識を十分に習得し、同時に歴史史料にあたりながら、古代教会史の理解を深める。

＜履修条件＞
特に無し

＜授業計画＞
１　古代地中海世界とキリスト教
２　キリスト教のヘレニズム世界への伝播・ローマ帝国とキリスト教
３　使徒教父の時代と初期キリスト教の職制
４　弁証家の著作とロゴス・キリスト論の萌芽
５　グノーシス主義とキリスト教
６　マルキオン、モンタヌス主義との戦い
７　エイレナイオスの神学
８　テルトゥリアヌスとキプリアヌスの神学
９　ロゴス・キリスト論の展開とアレキサンドリア学派
１０　クレメンスとオリゲネス
１１　キリスト教公認とコンスタンティヌス体制
１２　アレイオス主義とキリスト論論争
１３　正典形成と制度形成
１４　アウグスティヌスの時代と神学
１５　事項、人名等についての復習と試験

＜準備学習等の指示＞
世界史の知識がない受講生は、木下他『詳説世界史研究』（山川出版社）の古代～中世にかけての記述を読んでおくこと。

＜テキスト＞
特に定めない。講義のたびにプリントを配布する。

＜参考書＞
ウォーカー『キリスト教史Ⅰ・古代教会』（ヨルダン社）
ブロックス『古代教会史』（教文館）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
全講義の出席は大前提。その上で定期試験とレポートによって総合的に評価する。

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅱ	棚村　重行
前期・２単位	＜登録条件＞ 学部３年生が履修することが望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞ 古代末期から中世末期（AD250－1500）までの西欧中世教会史の概観と意義の解明を目指す。

＜授業の概要＞ 西欧中世教会史を、文明世界史的視点から三期(初期、盛期、後期)に分け「文明の変動」、「国家と教会」および「霊的生活と教理神学」に焦点をしぼり概観する。

＜履修条件＞ 西欧中世世界史の知識が必要なので、学部３年生以上の履修が望ましい。

＜授業計画＞　これらの学びを通して、実践的には、①カトリック教会、正教会、プロテスタント教会の歴史的－エキュメニカルな関係、②日本の古代・中世文明と西欧中世文明との比較を通してその特徴を学ぶ。

1. コースの紹介、質疑応答。
2. 初期中世（700－1050）：伝道とキリスト教化の時代:（1）文明の変動
3. 同上（2）国家と教会
4. 同上（3）教理神学の形成
5. 同上（4）霊的生活の形成：禁欲運動と修道院運動
6. 盛期中世（1050－1270）: 文明の膨張と円熟の時代:（1）文明の変動
7. 同上（2）国家と教会
8. 同上（3）新しい托鉢修道運動や異端運動
9. 同上（4）教理神学全般
10. （5）トマス・アクィナスの神学
11. 後期中世（1270－1500）：文明の変動、分裂、改革の時代：
    （1）文明の変動
12. 同上　（2）国家と教会
13. 同上　（3）教理神学
14. 同上　（4）結論：後期中世から宗教改革へ。FD 実施。
15. まとめ。

＜準備学習等の指示＞ 講義を中心とする。

＜テキスト＞1. 棚村重行『現代人のための教理史ガイド』教文館。　（各自購入）
2. 堀越孝一『中世ヨーロッパの歴史』講談社学術文庫。（各自購入）
3. 木下他　『詳説世界史研究(増補改訂版)』山川出版。（各自購入）
4. プリント（講義担当者が授業毎に用意・配布）

＜参考書＞ 授業の中で指示する。

＜評価（方法・基準）＞ a. 定期試験と中間試験の総合評価。b. 出席を重視し 1/3 以上無断で欠席しないこと。

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅲ	棚村　重行
後期・２単位	＜登録条件＞ 学部３年生の履修が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞ 初期近代世界(AD1500－1650)における宗教改革、対抗宗教改革運動の概観と意義を学ぶ。

＜授業の概要＞　初期近代西欧文明世界を北・西欧プロテスタント圏、英国圏、カトリック南欧圏に分けて、それら文明の構造の特徴、国家と教会、霊的生活と教理神学のテーマに分けて、宗教改革、対抗宗教改革運動を概観する。

＜履修条件＞ 世界史の基礎知識を前提とするので、学部３年生以上の履修が望ましい。

＜授業計画＞

1. コースの紹介と質疑応答。
2. 後期中世西欧文明世界の構造と宗教改革の諸原因について。
3. ドイツ・ルター派宗教改革運動（1）：その歴史的環境とルター派の特徴
4. 同上（2）：ルターとルター派の霊的生活と神学
5. 同上（3）：現代世界と日本におけるルター派の伝統
6. スイス改革派宗教改革運動（1）：その歴史的環境と改革派の特徴
7. 同上（3）：ツヴィングリと初期スイス改革派運動
8. 同上（4）：カルヴァンとスイス改革派運動
9. 同上（5）：現代世界と日本における改革・長老派の伝統
10. イングランド宗教改革運動（1）：その歴史的環境とその特徴
11. 同上：(2)：英国国教会とピューリタニズムの霊的生活と神学および聖公会、ピューリタン諸派系の諸教派
12. カトリック対抗宗教改革運動（1）：歴史的環境と運動の特徴
13. 同上（2）：霊的生活（イエズス会）トレント公会議の教理神学および現代のカトリック教会、諸修道会
14. 三十年戦争と盛期近代の開始、FD。
15. まとめ

＜準備学習等の指示＞ 講義を中心とした概論コース。

＜テキスト＞　1. 棚村重行『現代人のための教理史ガイド』教文館。（各自購入）
2. K.G.アッポルド、徳善訳『宗教改革小史』教文館。
3. 木下他『詳説世界史研究(増補改訂版)』山川出版社。
4. プリント（配布レジメ、史料集など)。

＜参考書＞ 授業の中で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞a.定期試験と中間試験で評価。b.1/3 以上無断で欠席しないこと。

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅳ	関川　泰寛
後期・２単位	＜登録条件＞特に無し

＜授業の到達目標及びテーマ＞
近・現代の教会史に関わる事項、人名、著作などの正確な知識を習得するとともに、近・現代の教会史の諸問題を整理して概観できる能力を養う。

＜授業の概要＞
近・現代の教会史を講義する。基礎的な知識を十分に習得し、同時に歴史史料にあたりながら、近現代の教会史の理解を深める。

＜履修条件＞
特に無し

＜授業計画＞
１　近代の思想・哲学とキリスト教
２　イギリスの理神論
３　ドイツ敬虔主義の起源と特色
４　ドイツ敬虔主義の担い手たち
５　アメリカへのキリスト教の移植
６　アメリカの植民市形成
７　イギリスにおけるキリスト教―ウェスレートメソディズム
８　アメリカにおけるキリスト教―大覚醒時代
９　信仰復興運動とその影響、海外伝道
１０　ドイツ啓蒙主義と神学思想
１１　１９世紀のイギリスにおけるキリスト教
１２　ニューマンとオックスフォード運動
１３　１９世紀のアメリカ・プロテスタンティズム
１４　エキュメニズムとキリスト教
１５　総括と人名、事項関連の総括

＜準備学習等の指示＞
世界史の知識が不十分なものは、木下他『詳説世界史研究』（山川出版社）の近現代の該当箇所を読んでおくこと。

＜テキスト＞
特に定めないが、その都度プリントを配布する。

＜参考書＞
ウォーカー『キリスト教史・近・現代のキリスト教』（ヨルダン社、但し品切）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
全出席を前提として、試験とレポートで総合的に評価する。

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ｖ	小室　尚子
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
　日本におけるキリスト教宣教開始（１６世紀）以来の、教会形成の歴史を学ぶ。異教社会での多くの試練を越えて、教会がどのように展開されて来たのかを学ぶことによって、現代において宣教に遣わされる者が、歴史的視点に立って、何を受け継ぎ、どのように伝えて行くのかの指針を見出すことを目標とする。

＜授業の概要＞
　キリシタンの時代から現代までの教会史／教会と日本の伝統的思想との緊張関係／現代日本において教会が抱える問題と課題（日本基督教団の問題と課題を中心に）と３つのテーマによって講義を進める。

＜履修条件＞
　宗教史 II を履修済であることが望ましい。

＜授業計画＞
第１回　序論：教会史を学ぶ意義
第２回　キリスト教伝来前史
第３回　キリシタンの歴史（1549～1873）
第４回　キリシタンの教会形成
第５回　キリシタン文書に見る布教方針
第６回　プロテスタント・キリスト教の移入と展開
第７回　教会の形成期（1859～1912）
第８回　（１）日本基督公会時代とその後
第９回　（２）福音理解
第１０回（３）教育史における貢献と弾圧
第１１回　聖書の翻訳
第１２回　教会の発展期（1912～1926）
第１３回　教会の試練と解放（1926～現代）
第１４回（１）戦時下、日本基督教団の成立
第１５回（２）現代、日本基督教団が抱えた問題と課題

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
鵜沼裕子『史料による日本キリスト教史』聖学院大学出版会
『日本キリスト教史年表[改訂版]』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編　教文館

＜参考書＞
初回講義において文献表配布とともに紹介する

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポート（期末に提出）によって評価する。
授業への参加意識
出席が全講義回数の２／３に満たない者は評価の対象としない。

専門教育科目・歴史神学関係	
宗教史Ⅰ	棚村　重行
前期・2 単位	＜登録条件＞　学部 3 年生が履修すること。

＜授業の到達目標及びテーマ＞　日本とアジア伝道の推進のためにも、教会史の学びとともに、宗教史の学びがどれほど大切であり、また役に立つかを、世界諸宗教の生活と歴史の検討を通して修得していきたい。

＜授業の概要＞　本講義の視点である「文明世界史的－宗教史的考察」の方法を明らかにする。続いて、ケース・スタディとして日本を含む現代世界の諸文明と、諸宗教共同体の宗教史的な類型、発展を概観し、21 世紀における世界宗教の環境の中でプロテスタント伝道と教会形成の諸課題を明らかにする。

＜履修条件＞　世界史や教会史の基礎知識が必要とされるので、学部 3 年以上で履修するのが望ましい。

＜授業計画＞

1. スケジュールの紹介、コースにかんする質疑応答。
2. 序論（1）：宗教研究の歴史と宗教史理論の紹介と課題の提起を講義により行う。
3. 序論（2）：本講義の「文明世界史－宗教史的」視点とはなにかを論じる。
4. 序論（3）：国家と宗教の関係についての概念、とくに市民宗教、公民宗教、政治的疑似宗教などの概念の整理を行う。
5. ケース・スタディ（1）：世界におけるユダヤ教の宗教生活の特徴、歴史を資料と講義でたどる。
6. ケース（2）：世界におけるギリシア正教とローマ・カトリック教会の性格や歴史をたどる。
7. ケース（3）：世界におけるキリスト教、とりわけプロテスタント諸教派の歩みをたどる。
8. ケース（4）：世界におけるイスラム教の宗教生活の特徴や歴史を論じる。
9. ケース（5）：インド文明におけるヒンドゥー教の本質や歴史を紹介し、アジア伝道の課題を論じる。
10. ケース（6）：南、東アジア文明における仏教の成立と伝播の特徴や歴史をたどる。
11. ケース（7）：中国文明と諸宗教と題し、中国の伝統的宗教生活とその影響について論じる。
12. ケース（8）：朝鮮、韓国文明における諸宗教として、とくに仏教、儒教、キリスト教などの展開と現代の韓国宗教事情などを学ぶ。
13. ケース（9）：日本文明における諸宗教(1)として、とくに「日本教」の生活のなかで神道の伝統を学ぶ。
14. ケース（10）：日本文明における諸宗教（2）として、とくに「日本教」内の仏教の土着化と変容の経験を学び、日本伝道の教訓を得たい。FD 実施。
15. まとめ

＜準備学習等の指示＞　1. あらかじめ、テクストを読んでおくこと。2. だが、全体としては復習を重視すること。

＜テクスト＞　岸本英夫編『世界の宗教』（東京：原書房、2004）。

＜参考書＞ 1. Ｊ．ヴァッハ『宗教の比較研究』渡辺学他訳　（京都：法蔵館、1999）。2. 脇本平也（つねや）『宗教学入門』講談社学術文庫（講談社、2001）。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 1. 期末試験、授業出席などを総合して評価を与える。2. 授業の 1／3 以上無断で欠席したものは、評価の対象としない。

専門教育科目・歴史神学関係	
宗教史Ⅱ	小室　尚子
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
宗教史 II では、日本における諸宗教（とくに古代における宗教形態、神道、仏教、儒教）の、歴史と日本的展開を概説するとともに、１６世紀キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また単に、諸宗教の歴史を学ぶにとどまらず、課程修了後には、この日本においてキリスト教宣教の使命を担うことになる学生たちが、宣教活動において直面するであろう諸宗教に裏打ちされた日本の伝統的思想との交渉に、どのように対応していくのかを考え始めることも目標とする。

＜授業の概要＞
日本における諸宗教の歴史的・日本的展開、およびその内容・形態の概説と、キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また歴史的に培われた日本人の伝統的思想に基づいた現代日本人の宗教観を分析・考察し、福音宣教における諸問題の克服への緒を探る。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
１．　序論：キリスト教受容における（日本人の）問題点
２．　宗教と世界観の関係
３．　キリスト教の世界観
４．　日本宗教史概観
５．　日本人のカミ観念の形成
６．　仏教伝来と「神道」
７．　日本仏教とその特質
８．　「習合」という形態
９．　中国の宗教の日本的展開
10.　民衆の宗教と「日本宗教」
11.　日本キリスト教史概説
12.　日本とキリスト教：日本人の精神的伝統とキリスト教
13.　日本におけるキリスト教の土着化の問題：宣教における諸問題（１）
14.　日本におけるキリスト教の土着化の問題：宣教における諸問題（２）
15.　まとめ：日本の教会の課題と使命

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
担当者がプリント教材を用意する。

＜参考書＞
初回授業において参考文献表を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポート（期末に提出）による評価
授業への参加意識
出席が全講義回数の２／３に満たないものは評価の対象としない。

専門教育科目・実践神学関係	
実践神学概論ａ	山口　隆康
前期・２単位	＜登録条件＞なし

＜授業の到達目標及びテーマ＞
実践神学の４大領域とその特質を理解するとともに実践神学的思考方法を身につける

＜授業の概要＞
実践神学基礎論から始め、実践神学諸科から説教学、礼拝学、牧会学、教会の法と制度について講義する。

＜履修条件＞
なし

＜授業計画＞

１，実践神学と召命論
２，実践神学の基礎論（１）実践神学とは何か
３，実践神学の基礎論（２）実践神学の神学的方法論
４，実践神学の基礎論（３）実践神学的教会論
５，実践神学の基礎論（４）実践神学的伝道論と伝道者論
６，説教学とは何か
７，現代説教学の歴史
８，説教学と２０世紀神学史
９，現代説教学の根本問題・何が問題なのか？
１０，現代説教学の課題（１）説教とコトバの問題
１１，現代説教学の課題（２）　説教と説教者の神学の問題
１２，現代説教学の課題（３）説教学と言語学
１３，現代説教学の課題（４）説教学と修辞学
１４，現代説教学の課題（５）説教学と説教者論
１５，現代説教学の課題（４）説教学と聴衆論

＜準備学習等の指示＞
K.バルト、E.トゥルナイゼン、H.J.イーヴァント、R.ボーレン、Ch.メラー等の著作の中から説教学関係の書物を、最低一冊は読んでおくこと。

＜テキスト＞
用意した印刷物を毎回配布するので、A4 版サイズのファイルを自分で用意しておくこと。

＜参考書＞
講義の進行順に参考書を選んで紹介していく

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
原則としてレポートの提出による。

専門教育科目・実践神学関係	
実践神学概論ｂ	山口　隆康
後期・２単位	＜登録条件＞なし

＜授業の到達目標及びテーマ＞
前期に引き続き実践神学の４大領域とその特質を理解するとともに実践神学的思考方法を身につける

＜授業の概要＞
後期は実践神学諸科から、とくに礼拝学、牧会学、教会の法と制度について講義する。

＜履修条件＞
なし

＜授業計画＞

１，礼拝学の定義と研究方法論
２，日本の教会と礼拝学
３，礼拝学の歴史（１）
４，礼拝学の歴史（２）
５，礼拝学の歴史（３）
６，礼拝学の歴史（４）
７，教会暦・祈祷書・説教テキスト
８，牧会学とは何か
９，牧会者としての牧師
１０，個人の魂の配慮としての牧会学
１１，教会形成のための一般牧会学
１２，　教会法の基本
１３，日本基督教団教憲について
１４，日本基督教団教規について
１５，実践神学と日本伝道論

＜準備学習等の指示＞
E.トゥルナイゼン、『牧会学』は、前期の間に目を通すこと

＜テキスト＞
前期につづき用意した印刷物を毎回配布するので、A4 版サイズのファイルを自分で用意しておくこと。

＜参考書＞
講義の進行順に参考書を選んで紹介していく

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
原則としてレポートの提出による。

専門教育科目・実践神学関係	
キリスト教教育概論ａ	朴　憲郁
前期・２単位	＜登録条件＞　通年登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
キリスト教教育の歴史と、諸形態と、理論を学ぶ。

＜授業の概要＞
二千年のキリスト教史における種々の教育形態の機能と意義を考察しながら、キリスト教教育の本質と目的を明らかにし、それを今日の教育的業に資するものとしたい。

＜履修条件＞
特にない。

＜授業計画＞
１．キリスト教教育とは何か？　一般教育との関連と相違
２．キリスト教教育と神学
３．聖書における「教育」の理解　-- ﾊﾟｳﾛ神学の場合
　　神学的人間理解に基づくキリスト教教育
４．原始キリスト教時代-1.使徒時代
５．原始キリスト教時代-2.使徒後時代
６．古ｶﾄﾘｯｸ教会時代
７．中世の学校：修道院（または僧院）学校（monastic school)、他
８．中世の教育の特徴としての象徴主義－その意義と問題
９．近世社会の諸特徴 2)教育史上の特徴:ルネサンスと宗教改革
10. ルターとカルヴァンの教育思想と実践　4)ｶﾄﾘｯｸ教会の教育改革
11. プロテスタンティズムの教育運動 6)近世後期ヨーロッパのキリスト教
12. 東北アジアのキリスト教教育
13. 現代
14. 現代的人間の特性とキリスト教教育
15. 伝道とキリスト教教育

＜準備学習等の指示＞
随時、必要に応じて課題を課す。

＜テキスト＞
特に指定はせず、その都度ﾌﾟﾘﾝﾄ配布する。

＜参考書＞
John L.Elis, A History of Christian Education, Florida, 2002
その他、随時、紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
定期試験の結果で評価する。
出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。

専門教育科目・実践神学関係	
キリスト教教育概論ｂ	朴　憲郁
後期・２単位	＜登録条件＞　通年登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
日本におけるプロテスタント・キリスト教の教会、家庭、学校の歴史的経緯と実態を把握する。

＜授業の概要＞
日本におけるプロテスタント・キリスト教教育史を概観しつつ、教会、学校、家庭におけるキリスト教教育の意義と課題を明らかにする。

＜履修条件＞
特にない。

＜授業計画＞
１．教会学校史(序、第一期～第五期)
２．教会学校の意義と使命
３．教会論的基礎づけ
４．キリスト教幼児教育について
５．その歴史的経緯
６．幼児園のキリスト教教育
７．初等･中等教育－公教育の一環としてのキリスト教教育
８．欧米におけるキリスト教学校の展開、他
９．大学教育：１）キリスト教大学のヴィジョン
10. 日本の大学の意義と課題
11. 聖書の家庭教育
12. 教会史上の家庭教育
13. 家庭の教育的役割、
14. 家庭のキリスト教教育確立のために
15. キリスト教家庭教育の方策

＜準備学習等の指示＞
随時、必要に応じて課題を課す。

＜テキスト＞
『日本における教会教育の歩み』(１８５８～２００６)、NCC 教育部歴史編纂委員会編、教文館、２００７年、（５月発行）　各自注文して用意すること。

＜参考書＞
随時、授業の中で諸資料を紹介していく。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
定期試験の結果で評価する。
出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。

専門教育科目・学部演習	
旧約聖書学部演習 a	小友　聡
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
旧約聖書学の基本的な知識を習得し、聖書学的に考える訓練をする。

＜授業の概要＞
旧約聖書学の基本的書物を読み、知識を整理する。

＜履修条件＞
ヒブル語Ｉを履修済みまたは並行して履修中であること。

＜授業計画＞

１．　オリエンテーション
２．　前理解のために
３．　序曲
４．　アッシリア時代初頭の無条件的災いの預言：アモス
５．　アッシリア時代初頭の無条件的災いの預言：ホセア、ミカ
６．　アッシリア時代初頭の無条件的災いの預言：イザヤ
７．　アッシリア時代の終わりのある決定的な日の預言者たち
８．　新バビロニア時代の回帰を求める預言：申命記
９．　新バビロニア時代の回帰を求める預言：エレミヤ
１０．　新バビロニア時代の回帰を求める預言：エゼキエル
１１．　新バビロニア時代の回帰を求める預言：第二イザヤ
１２．　ペルシア時代の預言活動の盛衰：第３イザヤ、ハガイ、ゼカリヤ
１３．　ペルシア時代の預言活動の盛衰：マラキからヨナまで
１４．　回顧と展望
１５．　まとめ

＜準備学習等の指示＞
毎回、内容を要約してレポートしていただき、皆で議論する。

＜テキスト＞
Ｋ．コッホ（荒井・木幡訳）『預言者Ｉ』教文館、1990 年
Ｋ．コッホ（荒井訳）『預言者Ⅱ』教文館、2009 年

＜参考書＞
その都度、指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席が３分の２に満たない者は評価の対象としない。積極的に授業に参加していただき、発表の内容で評価。

専門教育科目・学部演習	
旧約聖書学部演習ｂ	小友　聡
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
ヘブライ語原典を読んで釈義し、釈義論文を作成する。

＜授業の概要＞
申命記 18 章 15-22 節を原典で読み、さらに幾つかの注解書を読んで、釈義的な議論を重ねる。

＜履修条件＞
学部 4 年で旧約専攻あるいは希望者

＜授業計画＞
１．　オリエンテーション
２．　申命記 18 章 15 節を原典で読む
３．　申命記 18 章 16 節を原典で読む
４．　申命記 18 章 17 節を原典で読む
５．　申命記 18 章 18 節を原典で読む
６．　申命記 18 章 19 節を原典で読む
７．　申命記 18 章 20 節を原典で読む
８．　申命記 18 章 21 節を原典で読む
９．　申命記 18 章 22 節を原典で読む
１０．　日本語の注解書を読む（ＡＴＤ）
１１．　外国語の注解書を読む（ＷＢＣ）
１２．　外国語の注解書を読む（ＡＢ）
１３．　釈義論文の書き方指導
１４．　論文の発表
１５．　総括

＜準備学習等の指示＞
毎回きちんと予習すること。

＜テキスト＞
Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)とヘブライ語辞典（BDB）を各自購入すること。

＜参考書＞
その都度、指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席が 3 分の 2 に満たない者は評価の対象にしない。釈義論文を提出していただき、それによって評価する。

専門教育科目・学部演習	
新約聖書学部演習ａ	焼山　満里子
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞学部論文を書くことを念頭に、新約聖書学の研究書を読む。テキストの内容と共に新約聖書学の議論の仕方を学ぶ。

＜授業の概要＞テキストを分担して読む。担当を決め、発表と議論によって理解を深める。

＜履修条件＞学部４年の新約専攻および他専攻でも希望する学生。

＜授業計画＞

１．オリエンテーション

２.『イエスの死』　一章　「イエスの死をめぐる議論」総論

３.『イエスの死』　一章　「イエスの死をめぐる議論」研究史

４.『イエスの死』　一章　「イエスの死をめぐる議論」批判的検討

５.『イエスの死』　二章　「犠牲の子羊イエス」

６.『イエスの死』　三章　「契約の犠牲」

７.『イエスの死』　四章　「ローマ３：２６」

８.『イエスの死』　五章　「罪祭」

９.『イエスの死』　六章　「我らのためのイエスの死」

１０.『イエスの死』七章　「イエスの犠牲死」

１１.『イエスの死』八章　「請け出し」

１２.『イエスの死』九章　「密儀宗教における死との比較」

１３.『イエスの死』十章　「罪責証書からの解放」

１４.『イエスの死』十一章「和解」

１５．総括

ただし、受講者の関心によって適宜調整する

＜準備学習等の指示＞担当箇所を予め指定するので内容を紹介し、意見を述べる。また担当しない時は他の学生の発表を聞いて議論に参加する。

＜テキスト＞フリートリッヒ『イエスの死』日本基督教団出版局、１９８７年。絶版のため古本等を入手することを勧める。入手不可能なときは担当者が準備する。

＜参考書＞適宜紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席状況、授業参加、期末の課題によって総合的に評価する。

専門教育科目・学部演習	
新約聖書学部演習ｂ	焼山　満里子
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞学部論文として釈義レポートを書く。

＜授業の概要＞釈義の方法を学び、また論文の書き方、形式を学び、釈義レポートを作成する。

＜履修条件＞学部４年、新約専攻の学生及び希望者。

＜授業計画＞

１．　オリエンテーション

２．　釈義ステップ１，２

３．　釈義ステップ３

４．　釈義ステップ４

５．　釈義ステップ５

６．　釈義ステップ６

７．　釈義ステップ７

８．　釈義ステップ８

９．　釈義ステップ９

１０．釈義ステップ１０

１１．釈義ステップ１１

１２．釈義ステップ１２

１３．論文の議論の組み立ての見直し

１４．論文形式の見直し

１５．釈義レポート提出

＜準備学習等の指示＞クラスでテキストに従い釈義を進めつつ、各自テーマを決め、釈義レポートを作成する。毎回ステップを準備して授業に参加し、授業で各自の成果を議論し合う。

＜テキスト＞G.D.フィー『新約聖書の釈義』教文館、１９８３年。各自準備すること。

＜参考書＞適宜紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞授業参加、釈義のプロセス、釈義レポートによって総合的に評価する。

専門教育科目・学部演習	
組織神学学部演習ａ	神代　真砂実 須田　拓
前期・２単位	＜登録条件＞組織神学学部演習ｂと通年で履修・登録することを原則とする

＜授業の到達目標及びテーマ＞
組織神学的に考え、叙述する技法を身に着けること。

＜授業の概要＞
後期における卒業論文作成の準備。

＜履修条件＞
学部４年生で卒業を予定している者。

＜授業計画＞

第１回　オリエンテーション（指導：神代・助言：須田）
第２回　「パラグラフ」の書き方①：パラグラフとは何か（指導：神代・助言：須田）
第３回　「パラグラフ」の書き方②：パラグラフを書くための基礎知識（指導：神代・助言：須田）
第４回　「パラグラフ」の書き方③：パラグラフを書いてみる（指導：神代・助言：須田）
第５回　卒業論文の主題について（各自による発表）（指導：須田・助言：神代）
第６回　小レポートの作成①：資料を読む（指導：神代・助言：須田）
第７回　小レポートの作成②：要約する（指導：神代・助言：須田）
第８回　小レポートの作成③：構想を練る（指導：神代・助言：須田）
第９回　卒業論文の主題と文献について（各自による発表）（指導：須田・助言：神代）
第 10 回　小レポートの作成④：註と文献表の書き方（指導：須田・助言：神代）
第 11 回　小レポートの作成⑤：提出されたものの検討（数名ずつ）（指導：須田・助言：神代）
第 12 回　小レポートの作成⑥：同上（指導：須田・助言：神代）
第 13 回　卒業論文主題の最終決定（各自による発表：数名ずつ）①（指導：須田・助言：神代）
第 14 回　同上②（指導：須田・助言：神代）
第 15 回　まとめ（指導：神代・助言：須田）

＜準備学習等の指示＞
課題をきちんとやってくること。

＜テキスト＞
泉忠司、『90 分でコツがわかる！　論文＆レポートの書き方』（青春出版社）

＜参考書＞
必要に応じて、授業中に指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期中の課題によって評価する。

専門教育科目・学部演習	
組織神学学部演習ｂ	神代　真砂実 須田　拓
後期・２単位	＜登録条件＞組織神学学部演習ａと通年で履修・登録することを原則とする

＜授業の到達目標及びテーマ＞
学部卒業論文の作成。

＜授業の概要＞
受講者を六つのグループに分け、順に中間発表を重ねながら、卒業論文を作成する。

＜履修条件＞
前期と同じ。

＜授業計画＞
　第一サイクル（文献表・主要文献の内容概観の発表）
第１回　第１グループ（担当：神代）・第２グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表
第２回　第３グループ（担当：神代）・第４グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表
第３回　第５グループ（担当：神代）・第６グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表

　第二サイクル（1,000 字程度を執筆してくる）
第４回　第１グループ（担当：須田）・第２グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表
第５回　第３グループ（担当：須田）・第４グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表
第６回　第５グループ（担当：須田）・第６グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表

　第三サイクル（2,000 字程度を執筆してくる）
第７回　第１グループ（担当：神代）・第２グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表
第８回　第３グループ（担当：神代）・第４グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表
第９回　第５グループ（担当：神代）・第６グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表

　第四サイクル（3,000 字程度を執筆してくる）
第 10 回　第１グループ（担当：須田）・第２グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表
第 11 回　第３グループ（担当：須田）・第４グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表
第 12 回　第５グループ（担当：須田）・第６グループ（担当：神代）のメンバー各自の発表

　第五サイクル（4,000 字程度を執筆してくる）
第 13 回　第１グループ（担当：神代）・第２グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表
第 14 回　第３グループ（担当：神代）・第４グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表
第 15 回　第５グループ（担当：神代）・第６グループ（担当：須田）のメンバー各自の発表

＜準備学習等の指示＞
論文作成に積極的に取り組むこと。

＜テキスト＞
（なし。）

＜参考書＞
（なし。）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
最終的に提出された卒業論文によって評価する。

専門教育科目・学部演習	
歴史神学学部演習ａ	棚村　重行
前期・２単位	＜登録条件＞　学部４年次生が履修する。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
前期は「基礎コース」として歴史神学の学びに関する技法を学ぶ。

＜授業の概要＞
史料の扱い、歴史神学のレポートの書き方、書評の方法、図書館や資料館の利用法、情報整理術などを学習しつつ学ぶ。専攻者だけでなく、将来牧師として各個教会史を執筆する立場を想定し準備も兼ねたい。

＜履修条件＞　学部４年生を対象とする。

＜授業計画＞

１．コース紹介。発表分担決定。

２．講義　「歴史神学の研究とは？」

３．発表（1)「歴史研究の意義」 アーノルド　第一章「殺人と歴史」

４．発表（2)「歴史の史料」について　アーノルド　第四章「さまざまな声と沈黙」

５．講義（1)「第一次史料の扱い方」　*How to Study History* ４章

６．同上（2)　　同　　４章続き

７．同上（3)　実習　（練習シート使用）

８．発表（3)「歴史書を読む意味」　アーノルド　第七章「真実の語り」

９．講義（1)「第二次史料の読み方」　*How to Study History* ５章

１０．同上（２）　（練習シート使用）

１１．講義（1)　「歴史レポートの構想を練る」 *How to Study History*　９章

１２．同上（２）　実習

１３．講義（1)「歴史レポートを実際書く」　*How to Study History* １１章

１４．同上（２）　実習

１５．まとめ

＜準備学習等の指示＞
セミナーに積極的に参加し、発言すること。

＜テクスト＞1. J.H. アーノルド『一冊で分かる　歴史』岩波書店、2003 年。
2. N.F. Cantor and R. Schneider, *How to Study History* のコピー本使用。(学校で用意する)。

＜参考書＞
授業の中で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
１／３以上無断で欠席しない。発表者はテクストの発表や議論を提起する貢献度、実週毎に提出された練習シートの内容によって評価する。

専門教育科目・学部演習	
歴史神学学部演習ｂ	棚村　重行
後期・２単位	＜登録条件＞　学部４年生を対象。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
後期は「ワークショップ」として、各教会史書評、自分の研究発表を行う。

＜授業の概要＞
セミナーの前半では、学生が選択した各個教会史の書評を行う。後半は各自のテーマに従い、卒業論文の準備を兼ねた発表をする。

＜履修条件＞
学部４年生で歴史神学で学部卒業論文を作成する者。

＜授業計画＞
１．スケジュール決定。分担決定。
２．レクチャー「書評の技法について」。
３．教会史書評の発表（１）
４．同上（２）
５．同上（３）
６．同上（４）
７．同上（５）
８．テクスト発表　アーノルド『歴史』　第二、三章、第六章
９．研究発表（１）
１０．同上（２）
１１．同上（３）
１２．同上（４）
１３．同上（５）
１４．総合討論：質疑応答
１５．まとめ

＜準備学習等の指示＞
授業のなかで指示する。

＜テクスト＞
J.H. アーノルド『一冊で分かる　歴史』岩波書店、2003 年。

＜参考書＞
授業の中で指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
１／３以上無断で欠席をしないこと。評価は発表と討論参加の態度、卒業論文の内容を総合して与える。

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・聖書Ⅱ	焼山　満里子
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞新約聖書学の研究書を読む力を養う。

＜授業の概要＞授業では各自あらかじめ準備した日本語訳を検討し会う。

＜履修条件＞英語Ⅱ履修済みか同程度の英語読解力のレベルの学生が履修するのが望ましい。

＜授業計画＞

１．　オリエンテーション　（英和辞書持参のこと）

２．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. １

３．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. ２

４．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. ３

５．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. ４

６．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. ５

７．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. ６

８．　１－７回までのまとめ

９．　テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. ７

１０．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. ８

１１．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. ９

１２．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. １０

１３．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. １１

１４．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　p. １２

１５．テキスト　第一章　Paul and the Corinthians　まとめ

進度は受講者の関心によって適宜調整する。

＜準備学習等の指示＞毎授業講読担当箇所を指定するので、各自あらかじめ日本語訳を準備の上で出席のこと。

＜テキスト＞Victor Furnish, *The Theology of the First Letter to the Corinthians*, Cambridge: Cambridge University Press, 1999.　初回の授業時に配布する。

＜参考書＞英和辞書、英文法書は各自使いやすいものを選び準備する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞出席状況、授業参加、中間、期末の課題を総合的に評価する。

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・聖書Ｉ	大住　雄一
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞　聖書学論文においても、ドイツ語だからできる議論があり、また、もちろん議論がドイツ語の制約を受ける場合がある。ドイツ語で書かれた聖書学論文を読むという体験を共有したい。

＜授業の概要＞　Rolf Rendtorff, Die Tora und die Propheten, in: Christof Hardmeier / Rainer Kessler / Andreas Ruwe (Hg.), Freiheit und Recht, Guetersloh, 2003, S. 155-161.　を読む。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

１．　オリエンテーション
２．　第１段
３．　第２段
４．　第３段
５．　第４－５段
６．　第６－７段
７．　第８－９段
８．　第１０段
９．　第１１段
１０．　第１２段
１１．　第１３段
１２．　第１４段
１３．　第１５段
１４．　第１６段
１５．　まとめ　預言者の意味

＜準備学習等の指示＞　取り扱う箇所を出来る限り正確に和訳して授業に臨むこと

＜テキスト＞　授業に関係する箇所のコピーを第一回授業時に配付する。

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞　参加者は、毎回準備した翻訳を発表する。その内容によって成績をつける。

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・聖書Ⅱ	小友　聡
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
ドイツ語で聖書学の基本的な論文を読み、ドイツの聖書学に親しむ。

＜授業の概要＞
現代ドイツの代表的な旧約緒論の教科書 Erich Zenger u.a., Einleitung in das Alte Testament, 3.Auflage, Kohlhammer, 1998 の中で、知恵文学の緒論的解説文を読む。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
1. オリエンテーション
2. Eigenart und Bedeutung der Weisheit Israels の部分、S.291-292 を読む
3. S.293-294 を読む
4. S.295-296 を読む
5. S.296-297 を読む
6. S.336-337 を読む
7. S.338-339 を読む
8. S.340-341 を読む
9. S.342-343 を読む
10. S.343-344 を読む
11. S.344-345 を読む
12. S.346-347 を読む
13. S.348-349 を読む
14. S.350-351 を読む
15. まとめ

＜準備学習等の指示＞
毎回予習して授業に臨むこと。聖書とドイツ語辞典を持参すること。

＜テキスト＞
上記文献のコピーを配布する。

＜参考書＞
そのつど指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
毎回準備した翻訳によって評価する。

この科目については、別途配付のものを参照すること。

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・組織Ⅰ	
前期・２単位	＜登録条件＞
＜授業の到達目標及びテーマ＞	
＜授業の概要＞	
＜履修条件＞	
＜授業計画＞	
＜準備学習等の指示＞	
＜テキスト＞	
＜参考書＞	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞	

この科目については、別途配付のものを参照すること。

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・組織Ⅱ	
後期・２単位	＜登録条件＞
＜授業の到達目標及びテーマ＞	
＜授業の概要＞	
＜履修条件＞	
＜授業計画＞	
＜準備学習等の指示＞	
＜テキスト＞	
＜参考書＞	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞	

この科目については、別途配付のものを参照すること。

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・組織Ⅰ	
前期・２単位	＜登録条件＞
＜授業の到達目標及びテーマ＞	
＜授業の概要＞	
＜履修条件＞	
＜授業計画＞	
＜準備学習等の指示＞	
＜テキスト＞	
＜参考書＞	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞	

この科目については、別途配付のものを参照すること。

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・組織Ⅱ	
後期・２単位	＜登録条件＞
＜授業の到達目標及びテーマ＞	
＜授業の概要＞	
＜履修条件＞	
＜授業計画＞	
＜準備学習等の指示＞	
＜テキスト＞	
＜参考書＞	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅳ	左近　豊
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
旧約聖書に見出される神学思想の現代的意義について考察する。特に旧約聖書の「嘆き」に注目し、教会の礼拝、牧会、祈り、霊的生活において、旧約聖書神学的視座に立った思索を身につけることを目的とする。

＜授業の概要＞
危機の時代に発せられた言葉として旧約詩編、哀歌等を取り上げ、参照すべき聖書テキストを文芸学的手法を用いて分析し、その様式や語り口の特徴を理解し、現代の危機に向けて教会が語るべき言葉を探求する。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

１、 序　課題の設定：現代の教会に仕える私たちが、旧約聖書に問い、また逆に問われている問題、特に「嘆き」に注目し、授業全体の課題を設定する。
２、 旧約聖書と現代（１）：現代を旧約聖書神学的視点から考察する。
３、 旧約聖書と現代（２）：東日本大震災後を旧約聖書神学的視点から考察する。
４、 証言としての旧約聖書：旧約聖書の証言性に注目し、「嘆き」を通して証しされる神、信仰共同体、歴史について考察する。
５、 旧約聖書　嘆きの詩編（１）:「個人の嘆きの詩」を取り上げ、その様式と内容について考察する。
６、 旧約聖書　嘆きの詩編（２）:「共同体の嘆きの詩」を取り上げ、その様式と内容について考察する。
７、 旧約聖書　嘆きの詩編（３）:「嘆きの詩編」の神学的主題について考察する。
８、 旧約聖書　エレミヤ書：「エレミヤ書」の嘆きの様式と内容について考察する。
９、 旧約聖書　哀歌（１）:「哀歌」の様式と内容について考察する。
１０、　旧約聖書　哀歌（２）:「哀歌」の神学的主題について考察する。
１１、　信仰共同体の歴史における嘆き（１）：ユダヤ教ラビ文献における哀歌解釈について考察する。
１２、　信仰共同体の歴史における嘆き（２）：アウシュヴィッツ後の哀歌解釈について考察する。
１３、　十字架の金曜日と復活の主日の間：土曜日の神学を探求し、嘆きの礼拝学的意味を考察する。
１４、　現代の嘆きの詩：現代における旧約詩編の展開例として数名の信仰詩人の詩を取り上げて考察する。
１５、総括

＜準備学習等の指示＞
各授業で挙げられる参考文献に事前に目を通しておくとよい。

＜テキスト＞
聖書。その他授業の中で指示する。

＜参考書＞
各回レジュメに参考文献を挙げる。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加を重視し、期末レポートによって評価する。

専門教育科目・聖書神学関係	
ヒブル語Ⅰ（1,2）	本間　敏雄
前期・４単位	＜登録条件＞ 通年の登録が望ましい。後期登録は前期単位取得者。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
テーマ：聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。
目標：平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。

＜授業の概要＞
基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄。

＜履修条件＞
単位取得者は継続して後期（Ⅱ）も履修すること。原則として学部４年生。旧約専攻者は必修。

＜授業計画＞
１）１課　ヒブル語とは、文字（Alphabet)、書き方
２）１課　写字練習、写本文字(Codex Leningradesnsis)
３）２課　母音記号（Vowel-signs）
４）３，４課　音節、Shewa、母音文字、Mappiq
５）５，６課　Dagesh、Rafe、母音の分類と変化
６）７，８課　喉音、アクセント等諸記号、Ketib・Qere
７）９課　定冠詞、形容詞（１)、接続詞（Conjunction）
８）９課（２）
９）１０課　人称・指示代名詞（Pronoun)、関係代名詞（１)、疑問詞
１０）１１課　前置詞（Preposition)、目的辞（nota accusativi）
１１）１１課（２）人称代名詞語尾（Suffix）（１)：前置詞、目的辞付加形
１２）１２課　動詞：完了態（Perfect）
１３）１３課　未完了態（Imperfect）
１４）１４課　願望形（Jussive、Cohortative）
継続ウァウ（Waw Consecutive)、従属ウァウ
１５）１４課（２）
１６）１５課　命令形（Imperative)、不定詞（Infinitive）
１７）１５課（２）分詞（Participle）
１８）１６課　状態動詞
１９）１７課　名詞：語形変化、分類、独立形、合成形（Construct state）
２０）１７課（２）合成形、形容詞（２）
２１）１８課　名詞の変化（第一類)、不規則変化名詞
２２）１８課（２）
２３）１９課　名詞の変化（第二類)、副詞と形成接辞、所有
２４）２０課　名詞の変化（第三、第四、第五類)、名詞形成と接辞
２５）２１課　人称代名詞語尾（２）－Ⅰ：名詞の～
２６）２１課Ⅰ（２）
２７）２１課　人称代名詞語尾（２）－Ⅱ：動詞の～
２８）２１課Ⅱ（２）
２９）全体復習
３０）総まとめ

＜準備学習等の指示＞
予習大切。

＜テキスト＞
「ヒブル語入門」（改訂増補版　左近／本間）

＜参考書＞
J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
筆記試験、小テストで評価する。

専門教育科目・聖書神学関係	
ヒブル語Ⅱ	本間　敏雄
後期・２単位	＜登録条件＞　前期単位取得者

＜授業の到達目標及びテーマ＞
テーマ：聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。
到達目標：平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。

＜授業の概要＞
基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄

＜履修条件＞
ヒブル語Ｉと通年で履修すること。原則として学部４年生。旧約専攻者は必修。

＜授業計画＞
前期より継続
１）２２課　動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal
２）２３課　強意語幹：Piel、Pual、Hithpael
３）２３課（２）
４）２４課　使役語幹：Hifil、Hofal
５）２４課（２）
６）２５課　不規則動詞：Pe 喉音動詞
７）２６課　Ayin 喉音、Pe 喉音動詞、関係代名詞（２）
８）２７課　二重 Ayin 動詞、二根字動詞
９）２８課　数詞、所有表記
１０）２９課　弱 Pe 動詞（１）：Pe Alef、Pe Nun 動詞
１１）３０課　弱 Pe 動詞（２）：Pe Waw、Pe Yod 動詞
１２）３０課（２）
１３）３１課　弱 Lamed 動詞：Lamed Alef、Lamed He 動詞
１４）３２課 二重弱動詞
１５）総まとめ

＜準備学習等の指示＞
予習大切。

＜テキスト＞
「ヒブル語入門」（改訂増補版　左近／本間）

＜参考書＞
J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
筆記試験、小テストで評価する。

専門教育科目・聖書神学関係	
アラム語ａ	佐藤　泉
前期・２単位	＜登録条件＞通年での履修が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。

＜授業の概要＞
聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記３１：４７・エレミヤ１０：１１・エズラ４：８－２４・５：１－１７など)、アラム語文法を学ぶ。

＜履修条件＞
ヒブル語履修済みであることが望ましい。

＜授業計画＞

第 1 回：序　アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。

第 2 回：創世記 31：47 を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。

第 3 回：エレミヤ 10：11 を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。

第 4 回：エズラ 4：8－24 の講読(1)　不規則変化の名詞について学ぶ。

第 5 回：エズラ 4：8－24 の講読(2)　動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。

第 6 回：エズラ 4：8－24 の講読(3)　動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。

第 7 回：エズラ 4：8－24 の講読(4)　動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。

第 8 回：エズラ 4：8－24 の講読(5)　動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。

第 9 回：エズラ 4：8－24 の講読(6)　動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。

第 10 回：エズラ 4：8－24 の講読(7)　二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。

第 11 回：エズラ 5：1－17 の講読(1)　前置詞と代名詞語尾を学ぶ。

第 12 回：エズラ 5：1－17 の講読(2)　二根字動詞の Hapel 形を学ぶ

第 13 回：エズラ 5：1－17 の講読(3)　二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。

第 14 回：エズラ 5：1－17 の講読(4)　Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。

第 15 回：エズラ 5：1－17 の講読(5)　Pê Nun 動詞の変化を学ぶ。

＜準備学習等の指示＞
講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。

＜テキスト＞
Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition

＜参考書＞
左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』［改訂増補版］教文館、2011
William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。

専門教育科目・聖書神学関係	
アラム語ｂ	佐藤　泉
後期・２単位	＜登録条件＞通年での履修が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。

＜授業の概要＞
聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル５章）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書などのタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）

＜履修条件＞
ヒブル語履修済みであることが望ましい。

＜授業計画＞

第 1 回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル５章の講読に備える。

第 2 回：ダニエル５章の講読(1)　Pê ’ ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。

第 3 回：ダニエル５章の講読(2)　Pê ’ ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。

第 4 回：ダニエル５章の講読(3)　動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。

第 5 回：ダニエル５章の講読(4)　Lāmed ’ ālep・Lāmed Hê 動詞の変化を学ぶ。

第 6 回：ダニエル５章の講読(5)　二重‘ ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。

第 7 回：ダニエル５章の講読(6)　二重‘ ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。

第 8 回：ダニエル５章の講読(7)　代名詞語尾つきの動詞の変化を学ぶ。

第 9 回：ダニエル５章の講読(8)　喉音を含む動詞について学ぶ。

第 10 回：ダニエル５章の講読(9)　特殊な変化をする動詞について学ぶ。

第 11 回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。

第 12 回：タルグムの講読(1)　バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。

第 13 回：タルグムの講読(2)　タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。

第 14 回：タルグムの講読(3)　アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。

第 15 回：タルグムの講読(4)　原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。

＜準備学習等の指示＞
講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。

＜テキスト＞
Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition

＜参考書＞
左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』［改訂増補版］教文館、2011
William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。

専門教育科目・聖書神学関係	
イスラエル古代史	小友　聡
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
最近の歴史学と考古学の成果を踏まえて、旧約聖書のコンテキストである歴史について基本的知識を得る。

＜授業の概要＞
イスラエル古代史において、決定的な意味を有する出来事を幾つか学び、さらにそれらに関する研究文献をも紹介して、現在の研究状況を解説する。

＜履修条件＞
学部 1 年次に 2010 年後以降入学した者、および学部 3 年次に 2012 年度以降編入学した者が、3・4 年次に履修できる。大学院生による科目等履修も可能。

＜授業計画＞
１.「始まり」: 地理的・歴史的前提、旧約伝承の信頼性
２.「族長」: その信憑性をめぐって
３.「出エジプト」: どこまで歴史的か
４.「土地取得」: 取得か征服か、農民革命か社会変動か
５.「士師時代」: アンフィクチオニーとは、イスラエルとは
６.「士師時代から王制へ」: なぜ往古気宇となったか、王国は初めから一つであったか
７.「北王国とその滅亡」: 北王国とは何か、サマリヤの起源
８.「南王国とその滅亡」: ダビデ王朝の基盤
９.「アッシリアとバビロニア」: 二つの大国の意義
10.「バビロン捕囚期」: 捕囚期とはどういう時代であったか
11.「バビロン捕囚の意味と意義」: 捕囚によって何がどう変わったか
12.「ペルシア時代」: ユダヤ教団の成立、ユダヤ教団の成立、ユダヤ教とは何か
13.「ヘレニズム時代」: マカベヤ戦争はなぜ起きたか
14.「ユダヤ戦争まで」: 後期ユダヤ教か、初期ユダヤ教か
15.「旧約聖書のイスラエル」と「現在のイスラエル」は直結するか

＜準備学習等の指示＞
教科書をよく読むこと。また第 1 回授業の中で紹介された文献も読むことを勧める。

＜テキスト＞
新共同訳聖書のほか、S.ヘルマン/W.クライバー（樋口訳）『よくわかるイスラエル史―アブラハムからバル・コクバまで』教文館、1600 円を用いる。

＜参考書＞
第 1 回授業で文献を紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業への参加と期末レポートで評価する。3 分の 1 以上欠席した者はレポートを提出できない。

専門教育科目・聖書神学関係	
新約原典講読Ⅰ	三永　旨従
前期・２単位	＜登録条件＞Ⅱと通年での登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
編集史批判の立場から共観福音書の各文書の特徴を学ぶ。

＜授業の概要＞
新約聖書における編集史批判の重要性を示した文献を読んだ後、各文書の文体的特徴及び文法を重視しつつ、講読の基礎を学ぶ。

＜履修条件＞
ギリシャ語１、２を修得済みの者

＜授業計画＞
1.　辞書、コンコーダンスの用法について
2.　"The Stilling of The Storm in Matthew"　講読　P.52-54
3.　"The Stilling of The Storm in Matthew"　講読　P.54-57
4.　「嵐を鎮める」読解（マルコ）
5.　「嵐を鎮める」読解（マタイ）
6.　「嵐を鎮める」読解（ルカ）
7.　「ゲッセマネの祈り」読解（マルコ）
8.　「ゲッセマネの祈り」読解（マタイ）
9.　「ゲッセマネの祈り」読解（ルカ）
10.　「十字架」読解（マルコ）
11.　「十字架」読解（マタイ）
12.　「十字架」読解（ルカ）
13.　「ガリラヤ宣教」読解（マルコ）
14.　「ガリラヤ宣教」読解（マタイ）
15.　「ガリラヤ宣教」読解（ルカ）

＜準備学習等の指示＞
該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。

＜テキスト＞
・"The Stilling of The Storm in Matthew" G. Bornkamn in Tradition & Interpretation in Matthew, G. Bornkamn, G. Barth,　H.J. Held (1960)
・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27 版) に基づいた対観福音書（授業にて紹介）
・"A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers" W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）

＜参考書＞
ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
クラスへの参加あるいは試験による評価

専門教育科目・聖書神学関係	
新約原典講読Ⅱ	三永　旨従
後期・２単位	＜登録条件＞通年での登録が望ましい。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
前期に学んだ共観福音書の各文書の文体的特徴をふまえた上で、さらに各文書をギリシャ語で読むことの意味を問う。

＜授業の概要＞
前期とは別の聖書箇所における各文書の文体的特徴及び、文法を重視しながら理解を深める。

＜履修条件＞
ギリシャ語１、２を修得済みの者

＜授業計画＞
1.　「盲人の癒し」読解（マルコ）
2.　「盲人の癒し」読解（マタイ）
3.　「盲人の癒し」読解（ルカ）
4.　「悪霊追放」読解（マルコ）
5.　「悪霊追放」読解（マタイ）
6.　「悪霊追放」読解（ルカ）
7.　「山上の変貌」読解（マルコ）
8.　「山上の変貌」読解（マタイ）
9.　「山上の変貌」読解（ルカ）
10.　「エルサレム入城」読解（マルコ）
11.　「エルサレム入城」読解（マタイ）
12.　「エルサレム入城」読解（ルカ）
13.　「復活の言及箇所」読解（マルコ）
14.　「復活顕現」読解（マタイ）
15.　「復活顕現」読解（ルカ）

＜準備学習等の指示＞
該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。

＜テキスト＞
・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27 版）に基づいた対観福音書
・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）

＜参考書＞
ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
クラスへの参加あるいは試験による評価

専門教育科目・歴史神学関係	
教理史Ⅰ	関川　泰寛
前期・２単位	＜登録条件＞ 特になし

＜授業の到達目標及びテーマ＞
古代教理史に関わる項目、概念、人名、著作などを正確に理解し、主要な主題について概説的な理解を得る。

＜授業の概要＞
古代の教理史を概説する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

１　教理とは何か。ギリシア語圏とラテン語圏での展開
２　教理史の課題
３　教理史から見た使徒教父文書
４　弁証家とロゴス・キリスト論
５　ユスティノスの神学
６　グノーシス主義の教理的な特色とキリスト教の論駁
７　モンタノス主義とマルキオン主義
８　正典と職制理解とキリスト教
９　アレキサンドリア学派―クレメンスとオリゲネス神学の特色
１０　アレイオス論争
１１　アタナシオス神学の特色
１２　ニカイア論争史と信条の成立
１３　カパドキア教父の神学
１４　カルケドンへの道
１５　総括

＜準備学習等の指示＞
教会史Ⅰをよく復習しておくこと。ウォーカー『キリスト教史・古代教会』（ヨルダン社)、ブロックス『古代教会史』（教文館）などを通読しておくこと。

＜テキスト＞
マクグラス『キリスト教思想史入門―歴史神学概説』第一章（キリスト新聞社）を用いる。
品切れになった場合には、最初の講義で別途指示する。

＜参考書＞
その都度指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席を大前提として、小論文によって評価する。

専門教育科目・歴史神学関係	
教理史Ⅱ	関川　泰寛
後期・２単位	＜登録条件＞ 特になし

＜授業の到達目標及びテーマ＞
中世～宗教改革時代の教理史に関わる事項、人名、著書などを正確に理解し、中世～宗教改革時代の教理史の主要問題を概説的に整理できるようにする。

＜授業の概要＞
中世と宗教改革時代の教理史を概説する。

＜履修条件＞
特になし

＜授業計画＞

１　アウグスティヌスの生涯と著作、ドナティスト論争とペラギウス論争
２　アウグスティヌスの神学Ⅰ　サクラメント論、恩恵論
３　アウグスティヌスの神学Ⅱ　歴史の神学
４　中世の聖餐論争
５　アンセルムスの神学
６　トマス・アクィナスとボナヴェントゥーラ
７　宗教改革の教理の形成、聖書と伝統の問題
８　ルターの神学
９　カルヴァンの神学Ⅰ「生涯と神学」
１０　カルヴァンの神学Ⅱ「神論、キリスト論、聖霊論」
１１　宗教改革者の恩恵論
１２　宗教改革者のサクラメント論
１３　宗教改革者の教会論
１４　ディスカッション
１５　総括

＜準備学習等の指示＞
教会史ⅡとⅢをよく復習しておくこと。

＜テキスト＞
マクグラス『キリスト教思想史入門―歴史神学概説』第二～三章（キリスト新聞社）を用いる。品切れになった場合には、最初の講義で指示する。

＜参考書＞
その都度指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席を大前提として、小論文によって評価する。

専門教育科目・実践神学関係	
教会実習Ⅱ	W. ジャンセン
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
教会と伝道者の存在や働きを具体的に考えて学ぶこと。

＜授業の概要＞
神学生として教会の奉仕をしていて、また将来牧会者／説教者になるものにとって重要な対人関係と話し方の訓練になる授業。通年で教会に於ける、また教会によるコミュニケーションを課題にして、講義とロールプレイによる実習からなる。逐語記録で学ぶこともある。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
第１回　　スピーチの定義
第２回　　語り手について：言葉づかい
第３回　　語り手について：手振り、身振り
第４回　　聴衆について：言葉のメッセージ
第５回　　聴衆について：体のメッセージ
第６回　　スピーチの作り方について
第７回　　説教の作り方について
第８回　　スピーチの発表
第９回　　スピーチの発表
第１０回　スピーチの発表
第１１回　スピーチの発表
第１２回　スピーチの発表
第１３回　スピーチの発表
弟１４回　スピーチの発表
第１５回　まとめ

＜準備学習等の指示＞
教師として期待することは、授業の出席を重んじること、ノートをとること、最初から授業に出て、積極的に参加すること。

＜テキスト＞

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
スピーチの発表、逐語記録で評価する。
出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。

専門教育科目・実践神学関係	
牧会心理学ｂ	Ｗ．ジャンセン
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
牧会における心理学的課題を学ぶこと。

＜授業の概要＞
牧会的／心理学的課題について講義をし、ロールプレーで実践的に学ぶ。

＜履修条件＞
牧会心理学ａを終了したこと。

＜授業計画＞

			学習テーマ
第１回	オリエンテーション		
第２回	ロールプレー	（一人対一人）	恋愛
第３回	ロールプレー	（一人対一人）	DV
第４回	ロールプレー	（一人対一人）	ひきこもり問題
第５回	ロールプレー	（一人対一人）	自らを赦すこと
第６回	ロールプレー	（一人対一人）	相手を赦すこと
第７回	ロールプレー	（一人対一人）	職場でのトラブル
第８回	ロールプレー	（一人対一人）	病名告知
第９回	ロールプレー	（一人対一人）	経済的悩み
第１０回	ロールプレー	（一人対一人）	自殺
第１１回	ロールプレー	（一人対一人）	霊的に乾いている
第１２回	ロールプレー	（一人対二人）	結婚相談
第１３回	ロールプレー	（一人対二人）	非行少年[少女]問題
弟１４回	ロールプレー	（一人対二人）	共に暮らしている親との人間関係
第１５回	まとめ		

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
出席、ロールプレーの参加。
出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。

専門教育科目・実践神学関係	
臨床牧会教育ｂ	Ｗ．ジャンセン
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。

＜授業の概要＞
吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、
ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師の
スーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

＊オリエンテーション

＊院長による精神病理の講義。病院見学。

＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。

＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。

＊各自のケース・リポートをし、ケース・スタディをする。

第１回から第１５回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。

＜準備学習等の指示＞
遅刻をしないこと。
休まないこと。

＜テキスト＞

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
実習の参加度によって評価する。
期末テストによって評価する。
出席が２／３に満たない者は評価の対象としない。

専門教育科目・実践神学関係	
説教学入門ａ	小泉　健
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
聖書から聞くこと、聞いたことを語ることを、体験的に学ぶ。

＜授業の概要＞
学生各自が発表・実演を行い、それを素材として討論を重ねながら学ぶ。

＜履修条件＞
ギリシア語初級履修済み、もしくは履修中であること。

＜授業計画＞

第１回　「説教とは何か」を考え始める
第２回　「わたし」について語る
第３回　「わたし」と「聖書」と「福音」
第４回　「わたし」と「あなた」と「主イエス」
第５回　聖書を読む、朗読する
第６回　聖書朗読と説教
第７回　聖書に聞く、黙想する
第８回　聖書を読む、釈義する
第９回　聖書を語り直す（その１）対話中心の物語として
第１０回　聖書を語り直す（その２）一人称で
第１１回　さらに黙想する（その１）説教と教義学
第１２回　さらに黙想する（その２）説教と牧会
第１３回　説教は何をしているか
第１４回　説教を読む
第１５回　言葉が語る、言語以外のものが語る

＜準備学習等の指示＞
説教学を学ぶ者として、また将来の説教者としての「日々聖書を読む生活」

＜テキスト＞
聖書を持参すること。その他は、必要に応じて教室でプリントを配布する。

＜参考書＞
K. バルト、E. トゥルナイゼン『神の言葉の神学の説教学』日本基督教団出版局、1988 年（オンデマンド）
R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局（Ⅱはオンデマンド）
その他については授業中に文献表を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業での発表とレポート（説教）によって評価する。

専門教育科目・専攻間共同	
アジア伝道論演習ａ	朴　憲郁
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
　アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、２０世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。

＜授業の概要＞
伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。

＜履修条件＞
特にない

＜授業計画＞
１.伝道（宣教）学とは何かー

２．キリスト論的三位一体論における諸宗教との対話（その１）

３．キリスト論的三位一論における諸宗教との対話（その２）

４．韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判

（以下、テキストに従って、５～１４まで学生発表と講義）
５．議論の背景
６．権威の問題
７．三位一体の神の宣教
８．御父の御国を宣べ伝えることー信仰としての宣教ー
９．御子の生を分かち合うことー愛としての宣教ー
10. 聖霊の証しを担うことー希望としての宣教ー
11. 福音と世界の歴史
12. 神の正義のための行動としての説教
13. 教会成長、改宗、文化
14. 諸宗教の中の福音
15. アジア伝道の反省と展望（まとめ）

＜準備学習等の指示＞
指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。

＜テキスト＞
レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010 年。

＜参考書＞
1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology - Focused on Christology -,『神学』７２号、東京神学大学神学会、2010 年、教文館、143～166 頁

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業時の発表、参加度などによって評価する。

出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。

専門教育科目・専攻間共同	
アジア伝道論演習ｂ	朴　憲郁
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞

　アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような視野と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。同時に、それによる福音伝道の意義と課題への理解を深める。

＜授業の概要＞

伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北・東南アジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。

＜履修条件＞

特にない

＜授業計画＞

1. 序説－アジア・キリスト教伝道論－

（以下、３～１４まで学生発表と講義）

2. 韓国のキリスト教　初期とカトリック教会
3. 韓国のキリスト教　プロテスタント教会
4. 中国のキリスト教　初期とカトリック教会
5. 中国のキリスト教　プロテスタント教会
6. 台湾のキリスト教　初期とカトリック教会
7. 台湾のキリスト教　プロテスタント教会
8. 香港のキリスト教
9. フィリピンのキリスト教、その１
10. フィリピンのキリスト教、その２
11. タイのキリスト教
12. マレーシアのキリスト教
13. ミャンマー、カンボジアのキリスト教
14. インドネシアのキリスト教
15. アジア伝道の反省と展望（まとめ）

＜準備学習等の指示＞

指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。

＜テキスト＞

『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991 年　初版、重版。今絶版のため、プリント配布など、授業時にテキスト使用について指示する。

＜参考書＞

1. 朴論文、「日本プロテスタント伝道の一考察－アジア伝道の視点から－」、『神学』、71 号、2009 年 12 月、89～111 頁、2. 『アジア・キリスト教史[１]』、1989 三版、3. 『アジア・キリスト教史[２]』、1985 年　初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞

授業時の発表、参加度などによって評価する。

出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。

専門教育科目・古典語	
ラテン語Ⅰ	中村　克孝
前期・２単位	＜登録条件＞ なるべく通年で登録する。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
ラテン語基礎文法の修得（一）

＜授業の概要＞
教科書に即して､ラテン語文法を説明・解説し、履修学生がそれを理解し、練習問題をすることを通して、ラテン語文法の基礎に親しむように努める。

＜履修条件＞
学部３年次以上、通年で履修することが望まれる。
・週１コマの授業で､前期にラテン語基礎文法の 2/3 を学習するので､原則として、授業を欠席しないこと。また、予習・復習が不可欠である。
・やむを得ず欠席する場合は、欠席した授業で学習した項目について、自分の責任で学習し、課題がある場合は、課題を提出することが必要である。
・本授業においては、欠席数が総授業回数の 1/3 以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。

＜授業計画＞
・基礎文法学習（一）：テキストに従い、ラテン語の基礎文法を文法項目を学び理解し、練習問題を行なうことによって、基礎文法を学習／習得する。
・授業に出席することはもちろん必須であるが、文法項目の絶えざる復習と予備学習、及び練習問題への真剣な取り組みが大切である。
・尚、教科書の 10 課毎にレポートの提出という課題が課せられるので、確実に提出することが必要である。

授業回	授業内容（予定）	授業回	授業内容（予定）
1	教科書：第Ⅰ課・発声練習	9	教科書：第ⅩⅡ～(ⅩⅢ-ａ)課
2	教科書：第Ⅱ～Ⅲ課	10	教科書：第(ⅩⅢ-ｂ)～ⅩⅣ課
3	教科書：第Ⅲ～Ⅳ課	11	教科書：第ⅩⅤ～(ⅩⅥ-ａ)課
4	教科書：第Ⅳ～Ⅴ課	12	教科書：第(ⅩⅥ-ｂ)～ⅩⅦ課
5	教科書：第Ⅵ～(Ⅶ-ａ)課	13	教科書：第ⅩⅧ～(ⅩⅨ-ａ)課
6	教科書：第(Ⅶ-ｂ)～Ⅷ課	14	教科書：第(ⅩⅨ-ｂ)～ⅩⅩ課
7	教科書：第Ⅸ～(Ⅹ-ａ)課	15	前期のまとめと総括
8	教科書：第(Ⅹ-ｂ)～ⅩⅠ課		

＜準備学習等の指示＞
・授業に出席することはもちろん必須であるが、文法項目の絶えざる復習と予備学習、及び練習問題への真剣な取り組みが大切である。

＜テキスト＞
・土岐健治・井坂民子「楽しいラテン語」(教文館)。各自、書店で購入すること。

＜参考書＞
・授業の中で、教員が指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
・10 課毎のレポート提出・授業への参加状況・期末試験を総合的に考慮して、成績がつけられる。但し、出席が授業全体の 2/3 以上でない者は、評価の対象としない。

専門教育科目・古典語	
ラテン語Ⅱ	中村　克孝
後期・２単位	＜登録条件＞ なるべく通年で登録する。

＜授業の到達目標及びテーマ＞
①ラテン語基礎文法の修得を完了する。
②Vulgate（ラテン語聖書）の講読をとおして、教会ラテン語に親しむ。

＜授業の概要＞
教科書に即した、ラテン語文法の修得を完了し、Vulgate（ラテン語聖書）の原典講読によって、履修学生が教会ラテン語に親しんでいくように努める。

＜履修条件＞
学部３年次以上、通年で履修することが望まれる。
・週１コマの授業で､後期にラテン語基礎文法の最後の 1/3 の学修に努め、続いて、Vulgate（ラテン語聖書）の原典講読をするので、授業を欠席しないこと。また、予習・復習が不可欠である。
・やむを得ず欠席する場合は、欠席した授業で学習した項目について、自分の責任で学習し、課題がある場合は、課題を提出することが必要である。
・本授業においては、欠席数が総授業回数の 1/3 以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。

＜授業計画＞
・基礎文法学習（二）：テキストに従い、基礎文法を、文法項目の学習と練習問題を行うことによって学習／習得することを完了する。
・文法学習終了後、Vulgate（ラテン語聖書）の中から、よく読まれている数箇所の原典講読を行なう。
・尚、文法教科書の 10 課毎にレポートの提出という課題が課せられるので、確実に提出することが必要である。

授業回	授業内容（予定）	授業回	授業内容（予定）
1	教科書：第 XXI 課	9	Vulgate(2)
2	教科書：第 XXⅡ課～(XXⅢ-ａ)課	10	Vulgate(3)
3	教科書：第(XXⅢ-ｂ)～XXⅣ課	11	Vulgate(4)
4	教科書：第 XXⅤ～(XXVI-ａ)課	12	Vulgate(5)
5	教科書：第(XXVI-ｂ)～XXⅦ課	13	Vulgate(6)
6	教科書：第 XXⅧ～(XXIX-ａ)課	14	Vulgate(7)
7	教科書：第 XXIX-ｂ課	15	後期のまとめと総括
8	Vulgate(1)		

＜準備学習等の指示＞
・授業に出席することはもちろん必須であるが、文法項目の絶えざる復習と予備学習、及び練習問題への真剣な取り組みが大切である。

＜テキスト＞
・土岐健治・井坂民子「楽しいラテン語」(教文館)。各自、書店で購入すること。
・後半の Vulgate（ラテン語聖書）からの講読については、コピーを配布する。

＜参考書＞
・授業の中で、教員が指示する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
・10 課毎のレポート提出・授業への参加状況・期末試験を総合的に考慮して、成績がつけられる。但し、履修条件の欄で明記されているように、出席が授業全体の 2/3 以上でない者は、評価の対象としない。

教職課程・教職に関する専門科目	
教職概論	朴　憲郁
後期・２単位	＜登録条件＞　一学期登録となる

＜授業の到達目標及びテーマ＞
専門職としての学校教師となるための実践的見識の修得方法、および制度論的課題を正しく把握することを目指す。

＜授業の概要＞
今日の学校教育の課題の一つは、教師の資質と像をめぐる問題であろう。どういう教育理念と教師像を目指すべきかという基本的な主題を、教師に関する理解の歴史的変遷、文化、見識、教育課題などに分類して考察していく。

＜履修条件＞
特にない

＜授業計画＞
1.　教師への関心
2.　教職の専門性をめぐって
3.　教師文化の規範
4.　専門家の文化形成
5.　教師の実践的見識
6.　教師の知識と教育学的推論
7.　事例研究と語りの様式
8.　教師教育の課題
9.　生涯学習
10.　専門職化
11.　教員免許更新の教師養成について
12.　神学大学における教師養成理念
13.　キリスト教学校での教師像
14.　神学大学における教師養成理念
15.　今後の課題

＜準備学習等の指示＞
毎回の授業において、前半は担当講師の講義をし、後半は指定テキストの分担箇所の学生発表と意見交換がなされる。次週に扱うテキスト箇所を各自あらかじめ読んで理解しておき、意見を交し合う。

＜テキスト＞
講義に用いる諸資料は、および学生発表に用いるテキスト（稲垣忠彦・久富善之、『日本の教師文化』、東京大学出版会、1994 年）を、教師が用意する。

＜参考書＞
１．長尾十三二、『教師教育の課題』、玉川大学出版部、1994 年
２．近藤邦夫、『教師と子どもの関係づくり』、東京大学出版会、1995 年
３．佐藤学、『教師というアポリア＝反省的実践』、世織書房、1996 年

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業時の発表、参加度、期末レポートなどによって評価する。
出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。

教職課程・教職に関する科目	
心理発達と教育	**森　真弓**
前期・２単位	**＜登録条件＞**　特にない

＜授業の到達目標及びテーマ＞

生徒の発達段階に応じた諸側面や課題を整理し、不適応・問題行動についても発達心理学・臨床心理学の視点から理解する力を身につける。

＜授業の概要＞

人生をライフステージごとに見つめ、教育者として把握しておきたいテーマについて「事例検討」や学生からの質問を含む「レスポンスペーパー」、随時「ディスカッション」等を用いて学習を進めていく。

思春期（青年期前期）の理解に「乳幼児期の発達の視点」がいかに重要かを学ぶ。また近年学校現場で多く見られる「発達障害」についても基本的知識を獲得する。青年期の‘理想主義’や‘禁欲主義’の心理から発展させ、「キリスト者の心理特性」について、信仰とキリスト教教育についても考察する。成人期･中年期では、生徒の保護者理解をそのライフステージの視点から深めるとともに、この時期の教育者自らの課題を知的側面から整理しておく。老年期では死生観についてまとめ、教育との関連についても考察する。

最後に、教育者自身の自己理解を深めるための査定・ワークをとおして、教育者になるための心理的レジネスや自己対応スキルを学ぶ。

＜履修条件＞

特にない

＜授業計画＞

1　心とは――――――――――――既知の理論（ディスカッション）

2　教育とは――――――――――――理想の教育者像、教育と倫理観･宗教心（ディスカッション）

3　心理発達基礎理論――――エリクソン、愛着理論 等

4　乳児期――――――――――――クライン、精神病理・人格障害 等

5　幼児期――――――――――――マーラー、甘え理論 等

6　児童期――――――――――――発達障害　他

7　思春期――――――――――――乳幼児期との比較をとおして生徒を理解する

8　青年期(1)――――――――――アイデンティティ、青年ルター

9　青年期(2)――――――――――キリスト者の心理特性

10　成人期――――――――――――男性性と女性性、母性と父性

11　中年期――――――――――――保護者をそのライフステージから理解する、教師のうつ病 等

12　老年期――――――――――――死生観と教育、ターミナルケアとスピリチュアリティ

13　教育者の自己理解(1)――自分自身を知る（心理テスト演習）

14　教育者の自己理解(2)――自己開示（グループワーク）

15　教育者の自己理解(3)――まとめ（ディスカッション）

＜準備学習等の指示＞

なし

＜テキスト＞

授業中に資料を配布するとともに、授業の中で教員が指示する。

＜参考書＞

授業の中で紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞

授業への参加状況（50%）およびレポート１回（50%）により評価する。

この科目については、別途配付のものを参照すること。

教職課程・教職に関する科目	
教育基礎論Ⅰ	
前期・２単位	＜登録条件＞
＜授業の到達目標及びテーマ＞	
＜授業の概要＞	
＜履修条件＞	
＜授業計画＞	
＜準備学習等の指示＞	
＜テキスト＞	
＜参考書＞	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞	

この科目については、別途配付のものを参照すること。

教職課程・教職に関する科目	
教育基礎論Ⅱ	
後期・２単位	＜登録条件＞
＜授業の到達目標及びテーマ＞	
＜授業の概要＞	
＜履修条件＞	
＜授業計画＞	
＜準備学習等の指示＞	
＜テキスト＞	
＜参考書＞	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞	

教職課程・教職に関する科目	
宗教科教授法Ｂａ	小泉　健
前期・２単位	＜登録条件＞　通年で登録すること

＜授業の到達目標及びテーマ＞
キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の指導法を学ぶ。

＜授業の概要＞
前期は宗教科における教師の役割、授業の意味と方法を学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　キリスト教教育論（その１）神学的人間論
第２回　キリスト教教育論（その２）信仰と教育
第３回　教師論（その１）聖書科教師と教務教師
第４回　教師論（その２）聖書科教師の使命と役割
第５回　聖書科の授業（その１）教科としての聖書科
第６回　聖書科の授業（その２）聖書科の授業
第７回　聖書科の授業（その３）聖書科のカリキュラム
第８回　聖書科の授業（その４）聖書科における聖書
第９回　授業の展開（その１）教理教育と道徳教育
第１０回　授業の展開（その２）問題中心の授業
第１１回　授業の展開（その３）聖書的授業、象徴授業
第１２回　授業の展開（その４）文化形成
第１３回　授業の方法（その１）学習指導案の作成
第１４回　授業の方法（その２）教材の開発
第１５回　授業の方法（その３）学習形態の工夫、授業展開を導く教授行為

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞

＜参考書＞
学校伝道研究会編『教育の神学』ヨルダン社、1987 年（絶版）
『キリスト教学校教育の理念と課題』キリスト教学校教育同盟、1991 年（絶版）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末のレポート（学習指導案）によって評価する。

教職課程・教職に関する科目	
宗教科教授法Ｂｂ	小泉　健
後期・２単位	＜登録条件＞　通年で登録すること

＜授業の到達目標及びテーマ＞
キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の指導法を学ぶ。

＜授業の概要＞
後期は学生の模擬授業とそれを踏まえての共同の討論を通して授業の進め方を学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

第１回　キリスト教学校教育の歴史
第２回　聖書科授業の準備
第３回　模擬授業（その１）　いやし（マルコ 2 章 1～12 節）
第４回　模擬授業（その２）　弟子になる（マタイ 4 章 18～22 節）
第５回　模擬授業（その３）　愛のおきて（マルコ 12 章 28～34 節）
第６回　模擬授業（その４）　タレントを活かす（マタイ 25 章 14～30 節）
第７回　模擬授業（その５）　パン五つと魚二匹（ルカ 9 章 10～17 節）
第８回　模擬授業（その６）　祈り（ルカ 11 章 1～13 節）
第９回　模擬授業（その７）　罪を犯した者へのまなざし（ヨハネ 8 章 1～11 節）
第１０回　模擬授業（その８）　なお一つ欠けているもの（マルコ 10 章 17～31 節）
第１１回　模擬授業（その９）　空の鳥、野の花（マタイ 6 章 25～34 節）
第１２回　模擬授業（その１０）赦す（マタイ 18 章 21～35 節）
第１３回　模擬授業（その１１）クリスマス（ルカ 2 章 1～21 節）
第１４回　模擬授業（その１２）十字架（マルコ 15 章 1～47 節）
第１５回　模擬授業（その１３）復活（マルコ 16 章 1～8 節）

模擬授業においては、毎回一名の学生が 50 分の授業を行う。
その後、行われた授業を素材として、全体で討論を行う。

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞

＜参考書＞
後藤田典子『ジュニアのための聖書入門』新教出版社、2003 年。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業中の模擬授業発表および授業への参加で評価する。
（受講者が多くて発表できない場合は、授業の展開例のレポートで評価する。）

教職課程・教職に関する専門科目	
道徳指導法	菱刈　晃夫
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
人間存在にとって道徳がいかなる意味をもつのか。道徳への本質的問いを深める。今日の学校教育における「道徳の時間」に何ができるのかをさぐる。

＜授業の概要＞
現代日本社会における道徳および人間のあり方を捉えた上で、学校教育における「道徳の時間」にできること、できないことを見極め、その具体的指導法について学ぶ。

＜履修条件＞

＜授業計画＞
第１回　道徳への問い（わたしたちにとっての道徳）
　現代社会における道徳のあり方について、その状況を直視する。
第２回　道徳と人間
　道徳と人間存在との関係について、古今東西の歴史を振り返る。
第３回　道徳の語義
　道徳という言葉のもつ意味について、深く探る。
第４回　道徳性の育み
　道徳はモラリティとして教えられるものではなく、育むものであることを理解する。
第５回　学校教育のなかの道徳の時間(1)
　学校教育における「道徳の時間」の位置づけを、歴史を振り返りつつ確認する。
第６回　学校教育のなかの道徳の時間(2)
　学習指導要領道徳編について、概略を把握する。
第７回　学校教育のなかの道徳の時間(3)
　学習指導要領に基づいた道徳教育の実践例を検討する。
第８回　学校教育のなかの道徳の時間(4)
　学習指導要領に基づいた道徳授業の模擬授業体験をする。
第９回　学校教育のなかの道徳の時間(5)
　道徳教育の模擬授業実践をさらに展開する。
第 10 回　心の教育
　心の教育について、理解を深める。
第 11 回　現代の道徳教育（１）
　現代日本における道徳教育の実践例を見る。
第 12 回　現代の道徳教育（２）
　世界における道徳教育の実践例を見る。
第 13 回　宗教教育と道徳教育
　宗教教育と道徳教育との関係について、理解を深める。
第 14 回　霊性の涵養をめぐって
　スピリチュアリティの涵養について、指導要領４の視点とのかかわりを考える。
第 15 回　キリスト教と道徳教育
　キリスト教と道徳教育とのかかわりと、その実践例について概観する。

＜準備学習等の指示＞
下記テキスト、とくに『講義　教育原論』を受講前に全員必ず購入して学習に備えること。

＜テキスト＞
菱刈晃夫『教育にできないこと、できること－教育の基礎・歴史・実践・探究（第３版）』（成文堂、2013 年）、宮野安治・山﨑洋子・菱刈晃夫『講義　教育原論』(成文堂、2011 年)、文部科学省『中学校学習指導要領解説道徳編』（日本文教出版、2008 年）、各自で購入すること。とくに『講義　教育原論』は必携。

＜参考書＞
菱刈晃夫『近代教育思想の源流――スピリチュアリティと教育――』（成文堂、2005 年）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業に 2/3 以上出席の上、(模擬)授業への参加の度合い、さらにミニレポート提出、およびその内容を鑑みて、総合的に評価する。

教職課程・教職に関する科目	
特別活動指導法	山口　博
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置を学ぶ。

＜授業の概要＞
学習指導要領の主旨に沿った中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）の意義と編成を、現状を踏まえつつ全体的に把握したい。その上で特別活動のあり方を諸局面に即して検討し、それらの集団活動を通して、生徒の個性と人間性を育成する道筋を明らかにしていく。

＜履修条件＞
教職免許状取得希望者

＜授業計画＞

１．序論　キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置
２．教育課程（カリキュラム）の意義
３．教育課程（カリキュラム）の編成と現状
４．特別活動の目標
５．ホーム・ルーム活動の意義と特質
６・学校行事の意義と特質
７．学校行事の現状分析
８．学校礼拝の意義と特質
９．　式典について
10.　生徒会活動について
11.　クラブ活動について
12.　ボランティア活動について
13.　国際交流について
14.　総合的な学習について
15.　総括

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』文部科学省

＜参考書＞
『キリスト教学校に勤めるということ』―現場の声―　キリスト教学校教育同盟　監修

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
レポート及び試験と授業への参加姿勢によって評価

教職課程・教職に関する専門科目	
教育の方法と情報技術Ⅰ	石部　公男
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
教職科目のひとつとして中学校および高等学校の授業を適切に進めることができる技術を養う。主にパワーポイントや HTML を使用し教材作成を行うが、教師と学生同士の講評を通じ、技術を高める。

＜授業の概要＞
よりよい教材を作成するための技術の修得を目的とする。主としてパソコンを使用した教材の作成方法の技術的修得。ワード・エクセル・パワーポイントが使用できることを前提とする。

＜履修条件＞
原則として教職免許取得者を対象。学期ごとに履修可能。

＜授業計画＞
1. 学校教育と宗教教育・・・・・憲法と教育基本法を見直す
2. 教育に関する法規の概要・・・・学校教育法および同施行規則と学習指導要領との関係
3. 授業方法と技術・・・・年間指導案と学期ごとの指導案の作成Ⅰ
4. 授業実践の原理と方法・・・・指導案の作成Ⅱ
5. 一斉授業とグループ授業
6. 多様な情報機器を使用した教材作成
7. パソコンを使用した教材作成　その１（ワードの使用）
8. パソコンを使用した教材作成　その２（パワーポイントの利用）
9. パソコンを使用した教材作成　その３
10. パソコンを使用した教材作成　その４
11. パソコンを使用した教材作成　その５
12. パソコンを使用した教材作成　その６
13. パソコンを使用した教材作成　その７
14. パソコンを使用した教材作成　その８
15. パソコンを使用した教材作成　その９

＜準備学習等の指示＞
パソコンの基本的操作と、ワードおよびエクセル、パワーポイントが使用できること。情報基礎を修得していることが望ましい。各自参考図書として挙げている本を読んでおくこと。

＜テキスト＞
石部公男 他著「情報リテラシー概論：コンピュータの利用とネットワーク環境」ヴェリタス書房（2003）

＜参考書＞

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
日常の授業状況と提出物。最後に作成教材をＣＤにて提出。平常点（50%）、提出物（50%）

教職課程・教職に関する専門科目	
教育の方法と情報技術Ⅱ	石部　公男
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
教育の方法と情報技術Ⅰ、に引き続き、パソコンを使用してより良い教材の作成ができるようにする。プレゼンテーションソフトを使用し、画像のほか、音楽やナレーションなどの音声を取り込んだ教材作成と、HTML を使用した教材の作成が可能となるようにする。

＜授業の概要＞
教案の作成、およびテーマに沿った教材の作成を実習形式を取り入れ進める。また教師のみでなく学生相互の批評も取り入れ、より良い教材の作成が可能となるようにする。

＜履修条件＞
原則として、情報基礎の履修が終わっているか、それと同等のパソコン操作が可能な学生を前提とする。「教育の方法と情報技術Ⅰ」を履修していることが望ましい。

＜授業計画＞
1. 毎時間ごとの指導案の作成
2. パワーポイントを使用した教材作成　・・・1
3. パワーポイントを使用した教材作成　・・・2
4. パワーポイントを使用した教材作成　・・・3
5. パワーポイントを使用した教材作成　・・・4
6. パワーポイントを使用した教材作成　・・・5
7. パワーポイントを使用した教材作成　・・・6
8. ネットワークの全体像
9. LAN と WAN
10. セキュリティの概要
11. HTML による教材作成・・・・1
12. HTML による教材作成・・・・2
13. HTML による教材作成・・・・3
14. HTML による教材作成・・・・4
15. HTML による教材作成・・・・5　と、まとめ

＜準備学習等の指示＞
同「Ⅰ」の授業で参考にした図書をよく読んでおくことが望ましい。

＜テキスト＞
石部公男 他著「情報リテラシー概論：コンピュータの利用とネットワーク環境」ヴェリタス書房（2003）

＜参考書＞
「HTML タグ事典」など

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
毎時間実習的性格があるので、平常点（50%）、毎回の発表時の内容と最後の提出物による評価（50%）。

教職課程・教職に関する科目	
教育的指導と相談の研究Ⅰ	町田　健一
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
生徒指導の目的・内容・方法について理解を深める

＜授業の概要＞
中等教育における（広義の）生徒指導の目的・内容・方法について考察し、青年前期の生徒たちの発達上の特質・悩みの実態に即した指導と相談のあり方を具体的な事例をもとに研究する。キリスト教教育の観点に立った生徒指導のあり方もそれぞれの場面で考えたい。

＜履修条件＞
教職課程履修者

＜授業計画＞
第 1 回　授業目的と内容／青年前期における発達的特質
第 2 回　青年前期における生徒指導上の課題
第 3 回　生徒指導の目的・内容／グループ研究発表準備
第 4 回　生徒指導の方法／グループ研究発表準備
第 5 回　グループ研究発表準備
第 6 回　学生による研究発表とディスカッション
第 7 回　学生による研究発表とディスカッション
第 8 回　学生による研究発表とディスカッション
第 9 回　学習指導
第 10 回　進路指導
第 11 回　反社会的・非社会的問題行動に対する指導
（いじめと不登校の問題を中心に）
第 12 回　性教育：現状と課題
第 13 回　性教育：具体的な指導内容の在り方
第 14 回　教師としてのイエス・キリスト
第 15 回　期末レポートの発表、ディスカッション
・この授業は、講義が中心であるが、グループ発表、ディスカッション等を含める。

＜準備学習等の指示＞
1 週 90 分の授業に対して最低 90 分の自学（復習・演習等）が期待されている。

＜テキスト＞
資料を随時配布

＜参考書＞
必要に応じて授業内で提示（基本的にグループ研究はリサ−チなので、あえて指定しない）

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
グループ研究・発表（40%）、期末課題（60%）
全授業の 1/3 以上の欠席者には単位を出さない。

教職課程・教職に関する科目	
教育的指導と相談の研究Ⅱ	**町田　健一**
後期・２単位	**＜登録条件＞**Ⅰを履修済みであること

＜授業の到達目標及びテーマ＞
教育相談の具体的なプロセスを理解し、学校現場で直面する様々な問題に対応できる力を身につける。

＜授業の概要＞
中等教育における（広義の）生徒指導の目的・内容・方法について理解した上で、青年前期の生徒たちの発達上の特質・悩みの実態に即したカウンセリングのあり方・方法・諸注意を、具体的な事例をもとに研究する。キリスト教教育の観点に立ったカウンセリングのあり方もそれぞれの場面で考えたい。この授業は専門のカウンセラーの養成コースではない。教員としての教育相談・カウンセリングの資質の向上をめざす。

＜履修条件＞
教職課程履修者

＜授業計画＞
第 1 回　カウンセリングの担い手は？（担任教師とスクールカウンセラー）
第 2 回　学校カウンセリングの意義・必要性／カウンセラーとして期待される資質
第 3 回　様々な問題への対応（1）問題行動・不適応行動
第 4 回　様々な問題への対応（2）環境整備（協力体制・連携を含む）／問題分析
第 5 回　カウンセリングの基本的方法と留意点（1）
第 6 回　カウンセリングの基本的方法と留意点（2）
第 7 回　促進段階：共感性、尊敬的態度、おもいやり
第 8 回　移行段階：具体性、純粋性、自己開示
第 9 回　行動段階：直面化、即時性
第 10 回　具体的事例での演習
第 11 回　具体的事例での演習
第 12 回　具体的事例での演習
第 13 回　具体的事例での演習
第 14 回　学校カウンセリングの課題（期末レポート提出）
第 15 回　演習に関する論評とまとめ

＜準備学習等の指示＞
1 週 90 分の授業に対して最低 90 分の自学（復習・演習等）が期待されている。

＜テキスト＞
資料を随時配布

＜参考書＞
必要に応じて授業内で提示

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
グループ研究・発表（40%）、期末課題（60%）
全授業の 1/3 以上の欠席者には単位を出さない。

教職課程・教職に関する科目	
教職実践演習（中・高）	小泉　健
後期・２単位	＜登録条件＞　教職課程の最終段階で履修する

＜授業の到達目標及びテーマ＞
教職課程全体を振り返り、不足している知識、技能を補い、教員として必要な資質能力を養う。

＜授業の概要＞
役割演技、事例研究、模擬授業などを行いながら、教員としての資質能力を実践的に確認する。

＜履修条件＞
「履修カルテ」を教務課に提出済みであること。
教育実習を終えているか、もしくは本年度に教育実習を行う者であること。

＜授業計画＞

第１回　キリスト教学校の使命と宗教主任の役割
第２回　フィールドワーク①
第３回　授業をする力
第４回　教会との協力
第５回　教師としての話し方・聞き方
第６回　フィールドワーク②
第７回　生徒理解
第８回　個々の子どもの特性や状況への対応
第９回　いじめや不登校への対応
第１０回　学級経営
第１１回　フィールドワーク③
第１２回　他の教職員との協力
第１３回　保護者会、保護者への伝道
第１４回　学校礼拝の形成
第１５回　学校行事での役割

＜準備学習等の指示＞

＜テキスト＞
必要に応じて、授業時にプリントを配布する。

＜参考書＞
授業の中で紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
演習における発表と参加によって評価する。

教職課程・教職に関する専門科目	
教育実習Ⅰ	朴　憲郁 小泉　健
通年・５単位	＜登録条件＞　通年で登録のこと

＜授業の到達目標及びテーマ＞
聖書科授業を中心とする教師としての実践的教授力、指導力を養う。

＜授業の概要＞
中学校の教員免許状を取得するための最終科目で、キリスト教学校での教育実地研究を行う。

＜履修条件＞
実習年度の前年度の予備登録時に教育基礎論Ⅰ/Ⅱと宗教科教授法と「教科に関する科目」中、所定の科目を履修済みの人だけが登録・履修できる。また、教育実習の実施に伴って、本大学で行う「事前・事後指導」の受講（４月と１１月予定）を欠席すると、単位は取得できない。

＜授業計画＞

１．実習年度に、実習校で４週間（実質３週間)、授業を中心とした教育実習を受ける。

２．実習年度に、実習期間をはさんで、その前後に各６時間に及ぶ「事前指導」と「事後指導」を行う。

＜準備学習等の指示＞
事前と事後に、それぞれ掲示板にて指示を出す。必ず出席すること。

＜テキスト＞
特に指定しない。随時、プリントを配布する。

＜参考書＞
特になし

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
教育実習成績報告書と「事前・事後指導」出席等を総合的に評価する。

教職課程・教職に関する専門科目	
教育実習Ⅱ	朴　憲郁 小泉　健
通年・３単位	＜登録条件＞　通年で登録のこと

＜授業の到達目標及びテーマ＞
聖書科授業を中心とする教師としての実践的教授力、指導力を養う。

＜授業の概要＞
高等学校の教員免許状を取得するための最終科目で、キリスト教学校での教育実地研究を行う。

＜履修条件＞
実習年度の前年度の予備登録時に教育基礎論Ⅰ/Ⅱと宗教科教授法と「教科に関する科目」中、所定の科目を履修済みの人だけが登録・履修できる。また、教育実習の実施に伴って、本大学で行う「事前・事後指導」の受講（４月と１１月予定）を欠席すると、単位は取得できない。

＜授業計画＞

１．実習年度に、実習校で４週間（実質３週間)、授業を中心とした教育実習を受ける。

２．実習年度に、実習期間をはさんで、その前後に各６時間に及ぶ「事前指導」と「事後指導」を行う。

＜準備学習等の指示＞
事前と事後に、それぞれ掲示板にて指示を出す。必ず出席すること。

＜テキスト＞
特に指定しない。随時、プリントを配布する。

＜参考書＞
特になし

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
教育実習成績報告書と「事前・事後指導」出席等を総合的に評価する。

＜追補＞
この科目については、別途配付のものを参照すること。

専門教育科目・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅰ（1,2）	中野　実
前期・４単位	＜登録条件＞
＜授業の到達目標及びテーマ＞	
＜授業の概要＞ （視覚障がい者のための特別講義）	
＜履修条件＞	
＜授業計画＞	
＜準備学習等の指示＞	
＜テキスト＞	
＜参考書＞	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞	

＜追補＞
この科目については、別途配付のものを参照すること。

専門教育科目・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅱ	中野　実
後期・２単位	＜登録条件＞
＜授業の到達目標及びテーマ＞	
＜授業の概要＞ （視覚障がい者のための特別講義）	
＜履修条件＞	
＜授業計画＞	
＜準備学習等の指示＞	
＜テキスト＞	
＜参考書＞	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞	

外国語科目・選択	
ドイツ語Ⅱｃ	長山　道
前期・１単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
比較的平易なドイツ語テキストを通して神学諸分野の基本的な概念を学びつつ、読解力を身につける。

＜授業の概要＞
テキストの翻訳。文法の復習、ドイツ語読解の学習法についての指導も適宜行う。

＜履修条件＞
初級文法を習得していること。

＜授業計画＞

1. オリエンテーション
2. Altes Testament (Hans-Alwin Wilcke)
3. Altes Testament 続き
4. Neues Testament (Michael Wolter)
5. Himmelfahrt (Karl-Heinrich Bieritz)
6. Heiliger Geist (Michael Welker)
7. Heiliger Geist 続き
8. Kirche (Eberhard Hauschildt)
9. Kirche 続き
10. Geschichte des Christentums (Wolfram Kinzig)
11. Geschichte des Christentums 続き
12. Gemeindepädagogik (Martina Kumlehn)
13. Gemeindepädagogik 続き
14. Predigt (Wilfried Engemann)
15. Predigt 続き

＜準備学習等の指示＞
予習して出席すること。

＜テキスト＞
Clasen, Meyer-Blanck, Ruddat (Hg.), *Evangelischer Taschenkatechismus*, Birnbach / CMZ, ^{3}2002.
コピーを配布する。

＜参考書＞
必要に応じて参考資料を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業中の発表により評価する。

外国語科目・選択	
ドイツ語Ⅱｄ	長山　道
後期・１単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
比較的平易なドイツ語テキストを通して神学諸分野の基本的な概念を学びつつ、読解力を身につける。

＜授業の概要＞
テキストの翻訳。文法の復習、ドイツ語読解の学習法についての指導も適宜行う。

＜履修条件＞
初級文法を習得していること。

＜授業計画＞

1. オリエンテーション
2. Gemeinde (Birgit Weyel)
3. Die zehn Gebote (Werner H. Schmidt)
4. Die zehn Gebote 続き
5. Gott (Gerhard Sauter)
6. Gott 続き
7. Jesus von Nazareth (Michael Wolter)
8. Jesus von Nazareth 続き
9. Erntedankfest (Athina Lexutt)
10. Liturgie und Agende (Michael Meyer-Blanck)
11. Advent (Dörte Gebhard)
12. Epiphanias (Henning Schröer)
13. Glaubensbekenntnis (Wolfram Kinzig)
14. Glaubensbekenntnis 続き
15. Erziehung (Dietrich Zilleßen)

＜準備学習等の指示＞
予習して出席すること。

＜テキスト＞
Clasen, Meyer-Blanck, Ruddat (Hg.), *Evangelischer Taschenkatechismus*, Birnbach / CMZ, ^{3}2002.
コピーを配布する。

＜参考書＞
必要に応じて参考資料を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業中の発表により評価する。

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・組織Ⅰ	長山　道
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
英語の神学書を通してイエス論を学びつつ、読解力を身につける。

＜授業の概要＞
テキストの翻訳、解釈。章末に挙げられている設問について意見交換する。論文作成のために英語文献をよむこつについても適宜触れる。

＜履修条件＞
基本的な文法を習得していること。

＜授業計画＞

1. オリエンテーション
2. pp. 1-3
3. pp. 5-7
4. pp. 8-10
5. pp. 11-13
6. pp. 14-16
7. pp. 17-19
8. pp. 20-22
9. pp. 23-25
10. pp. 26-28
11. pp. 29-31
12. pp. 32-34
13. pp. 35-37
14. pp. 38-40
15. pp. 41-43

＜準備学習等の指示＞
予習して出席すること。

＜テキスト＞
Carl E. Braaten, *Who is Jesus? Disputed Questions and Answers*, Eerdmans, 2011. コピーを配布する。

＜参考書＞
必要に応じて参考資料を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業中の発表により評価する。

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・組織Ⅱ	長山　道
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
英語の神学書を通してイエス論を学びつつ、読解力を身につける。

＜授業の概要＞
テキストの翻訳、解釈。章末に設けられている問いについて意見交換する。論文作成のために英語文献を読むこつについても適宜触れる。

＜履修条件＞
基本的な文法を習得していること。

＜授業計画＞

1. オリエンテーション
2. pp. 44-46
3. pp. 47-50
4. pp. 51-53
5. pp. 54-56
6. p. 57, pp. 93-94
7. pp. 95-97
8. pp. 98-100
9. pp. 101-103
10. pp. 104-106
11. pp. 107-108, p.127
12. pp. 128-130
13. pp. 131-133
14. pp. 134-136
15. pp. 137-139

＜準備学習等の指示＞
予習して出席すること。

＜テキスト＞
Carl E. Braaten, *Who is Jesus? Disputed Questions and Answers*, Eerdmans, 2011. コピーを配布する。

＜参考書＞
必要に応じて参考資料を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業中の発表により評価する。

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・組織Ⅰ	長山　道
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
ドイツ語の神学書を通して教会論を学びつつ、読解力を身につける。

＜授業の概要＞
テキストの翻訳、解釈。論文作成のためにドイツ語文献を読むこつについても適宜触れる。

＜履修条件＞
基本的な文法を習得していること。

＜授業計画＞

1. オリエンテーション
2. S. 32-34
3. S. 35-37
4. S. 38-40
5. S. 99-101
6. S. 102-104
7. S. 105-107
8. S. 108-110
9. S. 111-113
10. S. 114-116
11. S. 117-119
12. S. 120-122
13. S. 123-125
14. S. 303-305
15. S. 306-308

＜準備学習等の指示＞
予習して出席すること。

＜テキスト＞
Konrad Stock, *Die Theorie der christlichen Gewißheit, Eine enzyklopädische Orientierung*, Tübingen, 2005. コピーを配布する。

＜参考書＞
必要に応じて参考資料を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業中の発表により評価する。

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・組織Ⅱ	長山　道
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
ドイツ語の神学書を通して教会論を学びつつ、読解力を身につける。

＜授業の概要＞
テキストの翻訳、解釈。論文作成のためにドイツ語文献を読むこつについても適宜触れる。

＜履修条件＞
基本的な文法を習得していること。

＜授業計画＞

1. オリエンテーション
2. S. 216-218
3. S. 219-220
4. S. 221-222
5. S. 223-224
6. S. 240-242
7. S. 243-244
8. S. 245-246
9. S. 247-248
10. S. 249-250
11. S. 251-252
12. S. 253-254
13. S. 255-256
14. S. 282-284
15. S. 285

＜準備学習等の指示＞
予習して出席すること。

＜テキスト＞
Konrad Stock, *Einleitung in die Systematische Theologie*, Berlin/New York, 2011. コピーを配布する。

＜参考書＞
必要に応じて参考資料を配布する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
授業中の発表により評価する。

教職課程・教職に関する科目	
教育基礎論Ⅰ	長山　道
前期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
教育の理念、教育に関する歴史、思想について学ぶ。

＜授業の概要＞
教育本質論を扱った後、その源流となる西洋教育思想史をたどり、さらに日本における西洋教育思想の受容とその後の教育史を概観する。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

1. 教育とは何か
2. 教育の目的
3. 教育の必要性、可能性と限界
4. 古代ギリシアの教育観
5. 中世からルネサンス、宗教改革にかけての教育観の変遷
6. ルターの教育論
7. コメニウスの教育論
8. ロックの教育論
9. ルソーの教育論
10. カントの教育論
11. ペスタロッチの教育論
12. フレーベルの教育論
13. ヘルバルトの教育論
14. デューイの教育論
15. 近代以降の日本における教育の展開

＜準備学習等の指示＞
必要に応じて指示する。

＜テキスト＞
レジュメを配布する。

＜参考書＞
講義中に紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末にレポートを課す。

教職課程・教職に関する科目	
教育基礎論Ⅱ	長山　道
後期・２単位	＜登録条件＞

＜授業の到達目標及びテーマ＞
教育に関する社会的、制度的、経営的事項について学ぶ。

＜授業の概要＞
学校社会学的に見た教育、社会における教育、教育制度の原理と基盤、および学校経営をめぐる基本問題について解説する。

＜履修条件＞

＜授業計画＞

1. 学校の社会的機能
2. 教育課程
3. 学校文化と社会化
4. 隠れたカリキュラム
5. 地域社会と教育
6. 家庭における教育
7. 現代社会と教育
8. 教育制度
9. 教育法、教育行政
10. 学校制度
11. 現代日本における教育の場面と制度
12. 教職
13. 組織としての学校
14. 学校経営
15. 学級経営

＜準備学習等の指示＞
必要に応じて指示する。

＜テキスト＞
レジュメを配布する。

＜参考書＞
講義中に紹介する。

＜学生に対する評価（方法・基準）＞
学期末にレポートを課す。